

## 「後世に残すべき、斎藤先生の技術」

手塚輝美（29才）

私は看護婦です。自分が腺筋症であると分かった時、普通では子宮を残して根治できる方法はないと分かっていました。だから、「広尾メディカルクリニック」での手術を終えて元気になった今でも、感謝しつつも、この手術が不思議でならないのです。また、初めて医療を「受ける側」に立ってみて、患者さんの“痛み”が少し分かった気がしています。

**生理は痛いもの**

小学校の高学年で初潮を迎えた私は、最初から生理痛がひどく、生理は痛いものだと思っていました。その痛みは本当に辛く、痛みのため吐き戻し、全身脂汗・冷や汗です。中学1年生の時には痛くて倒れました。鎮痛剤はいつも服用（バファリン）、痛みが激しい時は座薬も使いました。鎮痛剤にカラダが慣れて効かなくなるのか痛みが増しているのか（おそらくその両方）、薬の効果は段々失われ、高校生の頃には婦人科で痛み止めの注射を打っていました。

生理の1～2日目を乗り切ればあとは何とかなので、その場しのぎでも何でも、とにかく痛みを抑えることが何よりも優先していました。中学時代、2度目に倒れた時にかかった婦人科では、子宮の発育不全のためひどい痛みがある、高校時代には月経困難症と診断。何とか治療したいと思い、この婦人科へ通いました。当時は、痛み止めとエストロゲンを分泌させるための薬が処方されました。

20歳になっても痛みは相変わらず。診察でエコー検査をしたら子宮が大きいらしく、筋腫の疑いあり。なのに「早く妊娠して子供を産みなさい。」「子供を産めば治るんだけどね。」と繰り返すだけで、治療などの話は無し。痛み止めの薬だけ渡されました。後日また、痛みで倒れて入院した時も、痛み止めの注射をされただけ。対処的に痛みを何とかすることしかできないのだ、とこの時分かりました。

こんな事を繰り返しながら、28歳になってMRI検査を受けました。検査前は「筋腫だったら核摘出手術という手もあるから。」と言われていましたが、MRIの画像から、私のは腺筋症だと分かり「これは取れないねえ・・・。」と。自分でも勉強していたので、理性では分かっていたのですが、この痛みと一生縁が切れないのかというガックリした気持ち、治せない残念さ・無念さが入り混じってなんとも言えず、胸が重苦しい思いでした。

職業柄、先生に言ってもムダという事も分かっていたので、やるせなさは倍増していました。「治したいのだったら全摘出しかないが、独身だし若いから、ホルモン療法という方法もありますよ。」と言われました。「治せる・治る」とは絶対に言わず、選択肢を患者に示すだけ。医師側に、子宮を残して根治できる技術や方法が無いからです。それは自分でも分かっていました。看護婦という激務の中、こんな状態が続いていたら仕事になりません。子宮は取りたくなかったので、ホルモン療法を選択。治らないのに治療というのもおかしいですが・・・。

私の場合、治療できるとは毛頭考えておらず、ただ痛みから逃れるための対策に過ぎませんでした。4クール（約2年）も、ホルモン療法を続けましたが、投薬を止めると当然生理が始まります。治療前より痛みが増しているような気がしました。

**怪しいクリニック・・・？**

1999年、趣味でパソコンを購入、インターネットを始めました。とりあえずは腺筋症の治療法を探し、2000年の年明け頃、「広尾メディカルクリニック」を発見。「治せる」と書いてあったのはここだけ。他のサイトは既に自分でも知ってる事や、今までの医者が言っていたのと同じ事が書いてあるだけでした。見つけてすぐ、「診察を受けたい！」と思いましたが、現実問題、遠いので、電話を掛けるのをためらっていました。

それでも半年後の2000年6月、日帰りの強行軍で初診。斎藤先生はホームページで見たより若い印象。エコーでの診察後は説明を聞いただけで特に会話は無く、言葉少ない診察でしたが、ズバツと核心だけ話す先生は信

頼できました。単に好みの問題かもしれませんが、ペラペラとよく喋る医師はあまり良くない気がします。私との相性だけかもしれませんが・・・。医師と患者の相性は大事ですから。

初診の時、クリニックの場所がわからず迷子になってしまい電話をかけました。「何とか、中学校の近くまで来てください。」と言われ、やっとの思いで辿り着いたのですが、大きな看板も診療科目も特に掲示されていない、何かのお店のようなクリニックでした。たしか、普通の病院は、病院名・院長名・診療科目などを看板にして掲げるよう、決められているはずですが、ここは病院名が控えめに書いてあるだけです。

この様子を、診察の結果とともに上司である婦長に報告したら、おおいに怪しまれました。婦長はもちろん、医長までも「インターネットで見つけてきた」「自由診療」という事で、「大丈夫なのか?」と、本当に心配してくれました。ただ、私は自分のカラダに対する治療に納得したかったので、親や職場の上司を説き伏せました。

ただ、さすがに費用の事は大きなネックでした。それでも手術に踏み切れた大きな要因に、斎藤先生から同郷で手術をされた方を紹介いただき、直接お話ができた事があります。その方は「辛い思いをしながら手術の費用を貯めるより、健康な体で借金を返す方がよっぽど人生前向き。」と話してくれました。とてもパワフルな方で、これからの人生を生き抜くための気力に満ち溢れているように見えました。その方の存在に強く後押しされ、誰が何と言おうと「広尾」で手術を受けるのだ、という気持ちが固まりました。

術前の検査は、勤める病院で済ませ、(この時腫瘍マーカー260。術後10に下がる。)2000年9月18日、手術を受けました。私の手術は3番目でした。剃毛など手術の準備が進む中、「ここまで、長い道のりだった・・・」という感慨深い思い、「この手術で私は治るのだ」という安堵感など、様々な思いが交錯し涙が溢れていました。手術台でも泣いてしまった私に「泣いてちゃダメだよ。」と先生がおっしゃって、麻酔を追加されたようで、その後はぐっすりと眠ってしまいました。

この手術には、東京の伯母が立ち会ってくれる予定でしたが、伯母が体調を崩してしまい、独りぼっちな入院でした。その伯母から術直後に電話があり、少し喋りました。手術後、麻酔が切れて意識が戻ったら傷が痛くて寝返りが打てないほどでした。左足に痺れがあり、麻酔せいか?と思いつつ、痛みを耐えていました。2日目の歩行開始。私は手術が終わったのが遅かったのに、歩き始めは全員同じです。最後は損かも・・・と思いつつ、傷の傷むお腹をかばいながらヨタヨタと歩いていました。

## 苦しかった合併症

入院中、食欲はずーっとなく、何回かお腹が張って吐き戻しました。自分の症状から腸の動きが悪いと自覚、流腸などで何とか腸の動きを良くできるよう試してもらいました。でも効果がいまひとつで、食事も不本意ながらずっと残しつつ、退院前の昼食会のお寿司も、ほとんど食べられません。

9月23日が退院でしたが、相変わらずの調子の悪さ。この日が祝日でなかったら、退院したその足で東京の病院にかかりたいくらいでした。あいにく祝日だったので、救急窓口しか開いていないと判断し、早く地元に戻りたい!の一心で、鹿児島まで戻りました。

地元で病院にかかったら、即入院。腸閉塞が起こっているらしいのです。術後合併症としてはありがちな症状なのですが、それが自分の身に降りかかってくるとは・・・。結局、腸閉塞の治療で3週間の入院を余儀なくされました。イレウスチューブ:(鼻から管を入れ腸内に溜まる内容物(腸液など)を排出させる)とIVH(鎖骨静脈からの点滴)を取り付けられ、絶食。腸を休めます。鼻からチューブを入れるのはかなりキツく、水も飲めないで、口は渴く鼻は痛いわ・・・。腸の蠕動運動を促す薬を点滴から入れつつ、6日間過ごしました。食べて戻さなければOK、戻すようだと腸が癒着を起こしている可能性もあるので開腹するかもしれないと言われ、それだけは絶対に避けたく、「治れ・治れ」と祈るように過ごしました。

治療の甲斐あってか祈りが届いたか、吐き戻しは起こらず、チューブは外してもらえました。その後11日間、点滴はつけっぱなしでしたが、「飲む・食べる」という本能的な欲求を満たせないよりは、はるかにマシでした。私はたまたま、地元まで帰れるくらいの症状でしたが(決して辛くなかったわけではありません。)、もっとひどく合併症が起こった場合、「広尾」ではどうするのだろうか?と、ふっと思いました。勤務先と同僚や上司には「ほれ見たことか。」という人もいました。得体の知れない病院で手術なんかしてくるからだ、と。「生理痛は病気じゃない。」という人もいるくらいですから、耳を貸すには値しない意見なのですが・・・。

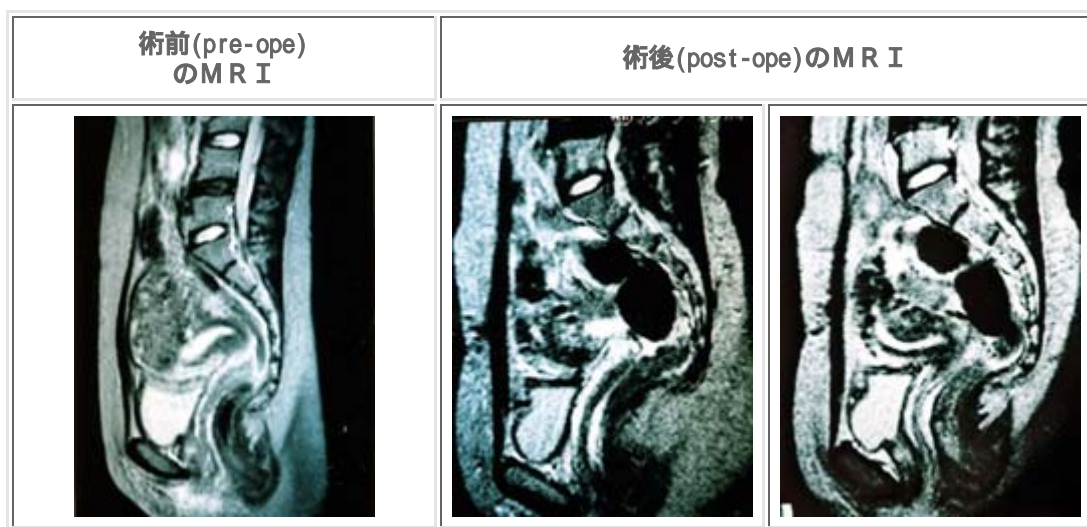
合併症が治った後の回復は「早い」と感じました。自分の勤務先で手術を受けて入院している患者さんと比べても、明らかに回復が早いと思われます。傷も小さく、身体への負担を極力抑えてあるからでしょう。

### 先生の後継者が生まれる事を望みます。

職場では「本当に生理来るの?」「手術はうまくいってるの?」と散々言われましたが、術後1ヶ月で無事、生理が来ました。それはもう、ただ、ただ「びっくり!」です。痛くない!痛くない生理なんて初潮以来なかった事。正常な生理は痛くないって、本当だったんだと実感しました。出血も少なくなっています。

自分の信じた道を選んで、本当に良かったと思えました。生理中でも、生理であることを全く気にせず外出できます。仕事でも、生理であることで周囲に気兼ねすることもありません。私の手術記録を勤務先の先生に見せても、「どういう手術をしているんだろう?」と首をかしげるばかりです。私自身も、手術を受けながら「どういう手術だったんだろう?」と思います。それほどに、今の医療の常識では、子宮を残して治療する事が困難な病気なのです。

先生の画像診断の眼力、手術の技術力の高さ、その他どれを取っても後世に残すべきだと思うのですが、残念な事に追従者が現れていないのが現実です。先生の後継者が現れてくれることを願ってやみません。



	術前 (pre ope)	術後 (post ope)
赤血球 (RBC)	462	480
血色素 (Hb) (g/dl)	140	142
ヘマトクリット (Ht)	43.0	46
CA-125	260	37
備考	摘出物：125g 病理：(Adenomyosis)腺筋症 ：内膜ポリープ 0.1g	

---

Copyright (C)2001  
HIROO MEDICAL CLINIC

**「良性腫瘍のはずなのに子宮ごと摘出されてしまう子宮筋腫。絶対納得できませんでした。」**

叶静代（45才）

私は1999年3月に結婚しました。主人とは地元北海道の職場で知り合い、転勤族の主人の下へ、身の回りの荷物だけ持って嫁ぎました。「何が何でも子供が欲しい！」という夫婦ではありませんが、自然に授かったら出産したいとは考えていました。そこへ子宮筋腫が発見され、医師や身内から「子宮全摘」をほのめかされた事には絶対納得できず、子宮を保存して治療できる病院や医師をインターネットで探し、比較的短期間で「広尾メディカルクリニック」に辿り着き、手術を受けることができました。

**最初に異変を感じたのは・・**

私の筋腫を最初に感知したのは、お医者様でも本人でもなく、エステティックのエステティシャンでした。1年くらい前にエステでマッサージを受けていたら、担当の方が「あれ？おなかにシコリがありますよ。」と言うのです。私は生理は至って順調。健康診断などの問診でも、婦人科系の症状には該当するものが一切ありません。ただ、当時はひどいベンピ症だったので、きっとそのせいだと思い、「あっ、そうですか？きっと今、ベンピしてるからだわ・・。」などと、会話を流していました。

その後スポーツジムに入会し、汗を流して健康管理だ！と意気込んで運動を始めたところ、うつ伏せになって背中をそらす「背筋運動」の時、うつ伏せになると下腹部に圧迫感を感じます。しかも月日が経つに連れ、圧迫するシコリがだんだんと大きくなっているようなのです。

「何か妙だ？」と自分の体に違和感を感じ始め、少し不安になり、筋腫の摘出手術を受けた友人にそれとなく尋ねてみました。友人からは「それは多分筋腫じゃないか。癒着していると大変だからすぐ病院に行くように」とのアドバイス。私は私で「子宮筋腫」についてインターネットでいろいろ調べ、多少なりとも知識を持って、診察に臨みました。

**摘出をほのめかす人たち・納得できない私**

まずは近所のマタニティクリニックへ。エコーでの検査ですぐさま「子宮筋腫です。」と言われ、しかも既に赤ちゃんの頭ほどの大きさだということです。しかもここまで大きいと、子宮を保存して筋腫だけ摘出するのは至難の業ではないか、と。次々と衝撃的な事実が目の前に突きつけられます。そこは小さなマタニティ専門のクリニックだったので、手術のできる大きい病院に行くよう、指示されました。

次に訪れたのは独協大学病院。ここは大学病院でもあるし近所で便利だったので、若くて感じの良い先生でした。内診とエコーの検査後、すぐさま「これだけ大きい筋腫だと全摘です。」と、言い渡されました。私の調べた限りでは、筋腫は腫瘍の中でも良性な腫瘍。子宮ごと摘出しなくてはならない理由が、私には考えられません。悪性の腫瘍があってもなるべく臓器は残そうという時代に、なんと時代遅れな治療しかできないのだろうか？全然納得できません。

医師の話では「子宮を残すような処置をしても、子宮の筋肉層にできている筋腫なので、子宮壁がほとんど残せない。子宮組織を殆ど取り除く事になるので、残す意味が無い。」子宮を残して筋腫だけ摘出して欲しい私の希望と、これだけ大きくなったらムリという医師側との意見が真っ向からぶつかりました。が、どちらにしても手術は免れないので、手術とMRIの予約をさせられました。私としては、全く不本意です。帰宅後、すぐに子宮を残して筋腫を治療できる病院を探し始めました。

## 動脈塞栓術と開腹手術

子宮動脈塞栓術の井田病院と、開腹手術の広尾メディカルクリニックを発見し、とりあえず両方の診察を受けて、治療内容を比較検討しようと考えました。「広尾メディカルクリニック」は、メールでの質問も受け付けてくれていたので、尋ねたい事を簡単にメールにつづり、送りました。2～3日後、斎藤先生からのビックリするほど親切丁寧な回答を頂き、この段階で、開腹手術を受けるなら「広尾メディカルクリニック」しかない、と決めていました。

川崎市立井田病院での診察。大学病院で撮ったMRIと紹介状を持って診察を受けました。こちらでは、子宮動脈塞栓術で子宮を保存できる筋腫の治療を行っています。ところが、この治療は私のように大きな筋腫になると治療に1年以上かかる上に、筋腫が消滅するわけではないとのこと。

私の場合、筋腫を小さくして妊娠・出産が可能な子宮になるまでには時間がかかりすぎるため、45歳の私には不向きだと説明されました。高齢初産のリミットである47歳までに子供を産むためには、この治療では間に合わないで勧められない、35歳ならば絶対勧めるのに、と。この大きさだったら大学病院で手術した方が早いといわれ、大学病院で散々摘出を勧められた私は驚きましたが、紹介状には「子宮を保存して手術する」というような事が書かれてありました。

ですが、大学病院では開腹してみないと子宮を残せるかどうか分からないと言われており、「そんな博打は絶対にイヤ！」だと思っていましたし、開腹手術は「広尾メディカルクリニック」と決めていたので、井田病院の診察室を後にしました。この治療法はダメと分かった瞬間から爽やかな気持ちでやっぱり「広尾」だ！との思いで。せっかく川崎まで来たのだから「広尾メディカルクリニック」にも行ってみようと思われ、井田病院の公衆電話から「広尾」に電話をかけたのですが、道順が分からず、翌日の予約を入れ結局この日は帰りました。

次の日斎藤先生の診察を受けましたが、先生は「きれいに筋腫だけ取れる。子宮は綺麗に残せるよ大丈夫。」と、おっしゃいました。「何か質問は？」ともおっしゃいましたが、以前のメールで親切な回答を頂いた後だったのと、広尾のホームページはほとんど見ていたこともあって「何もありません。先生にお任せするだけです。」と答えましたら、先生は笑っていらっしゃいました。

その日は金曜日だったのでお茶会に招待され、術後検診にいらした方、入院されてる方のお話を聞くことができ、いろいろと勉強になりました。もちろん手術の予約も入れました。半年後の予約でした。それまで生理に関してはまったく普通だったのに、手術の2ヶ月前の2回に関しては大出血を起こしました。摘出される！と知った筋腫が、まるで最期の断末魔・悪あがきをしているよう。昼間から夜用ナプキンを使わないと間に合わないほどの出血。今までこれが起こらなかったのが不思議です。

## 入院～術後

2000年2月。手術。この日、私は3番目でした。この時、「自分の手術は比較的簡単だから、最後なのだろう。」と考えていましたが、患者さんたちの話によると、難しそうなお人の方が後だそうです。確かに手術時間を比べると、前のお二人より1時間ほど長かった・・・。

手術なんて初体験だし、色々見渡したり、先生に色々尋ねたりしようと考えていましたが、目を開けていたり喋ったりすると、体の水分がどんどん失われ、術後の喉の渇きがひどくなるから眠っているようにと言われたので、素直に従って眠りました。そして手術が終わって部屋に戻り、自分の摘出物を見たときに「わ～、ホルモンみたい。ジューっと焼いて食べたらおいしいそう！」などと呑気な事を、朦朧としつつ主人に言いました。主人は気持ち悪そうに顔をそむけていましたが・・・。

後日、先生からは「あなたの筋腫はたいへんだったんだよ。赤ちゃんの頭どころか特大メロン大の筋腫を骨盤の中から取り出したんだから」と言われました。癒着などは無かったようなのですが、MRIで見ると、確かに骨盤内の下の下まで、ガッチリ筋腫が詰め込まれているような感じです。このくらいの大きさだと、20年くらい前から筋腫の“芽”はあったはずだとも言われ、ビックリしました。

術後の体調は至って良く、入院中は、以前に読んだ体験談の方々のように過ごせていたので、「私って（術後経過は）普通ですよ？」と看護婦さんに尋ねたら、大げさに首を横に振られ、「いえ、叶さんは特別元気です。」と言われました。それほど快適に、元気に入院生活を終え、退院を迎えました。当日は迎えに来てくれた主人と二人で電車を乗り継ぎ約2時間近く掛かる道のりを、しっかり自分の足で帰って来ました。

元気なはずの私の、唯一の問題点は、皮膚が人一倍弱く化膿しやすいので、術後3週間シャワーを浴びれなかった事。まだ肌寒い季節だったから良かったものの、真夏だったら耐えられなかったでしょう。主人が心配して、斎藤先生に診てもらうよう言うので、術後3週間は毎週「広尾」にうかがって、傷の消毒をしていただいています。

3週目の診察で「シャワー、まだダメですか？」と聞いたら「なんだ、まだ入ってないのか。」と斎藤先生に言われた時は「ひっどーい、先週まで先生がダメって言うからガマンしてたのに・・・。」と笑ってしまいました。文章ではなかなか斎藤先生のお人柄をお伝えするのは難しいかもしれませんが、とにかく患者の事を第一に考えてくれる、ユーモアたっぷりの親切な先生です。

術後の検査では、いびつに大きく腹腔内を占拠していた子宮が、可愛らしく小さくなってすっかり普通。手術前に大出血した生理も28日周期で至って順調です。術直後は貧血だったヘモグロビン値も、術後検査では正常値になっていました。

私の場合、筋腫が無くなった事で体の様々な症状が軽減しました。まずは痔。以前は引っ込めてもすぐに元に戻っていたのが、いまは全然、顔も出しません。これには斎藤先生も驚かれていました。次は尿の出渋り感。一般的には頻尿になるようですが、私の場合は逆で、手術の3ヶ月ほど前から尿が出渋るようになっていました。出たくてたまらないのに、なかなか出て行かず、深呼吸したり姿勢を変えたりすると、口をすぼめたホースから細い水が出るような感じで、勢いはあっても細い尿をなが〜い時間をかけて出していました。それが今は普通に戻っています。

あとは相変わらずのベンピではあるのですが、以前は1日出ないとお腹が張って、腹部がはちきれんんじゃないかと思うくらい痛かったのが、今はそういうヘンな痛みは全くなりませんでした。MRIを見ると手術前は筋腫の上に（お臍の上あたり）大腸がダンゴ状に乗っていた状態だったのです。ベンピと言っても、1日おきには排便があるので、今はあまり気にせず対応しています。

## 子宮筋腫の治療について思う事

今回の治療で強く感じた事は、なぜ子宮は摘出されてしまうのか？という事でした。産む予定が無かったら取ってしまうという発想は、一体どこから来るのでしょうか。子供がいれば・産まないなら・要らないでしょ？という安直な考え。

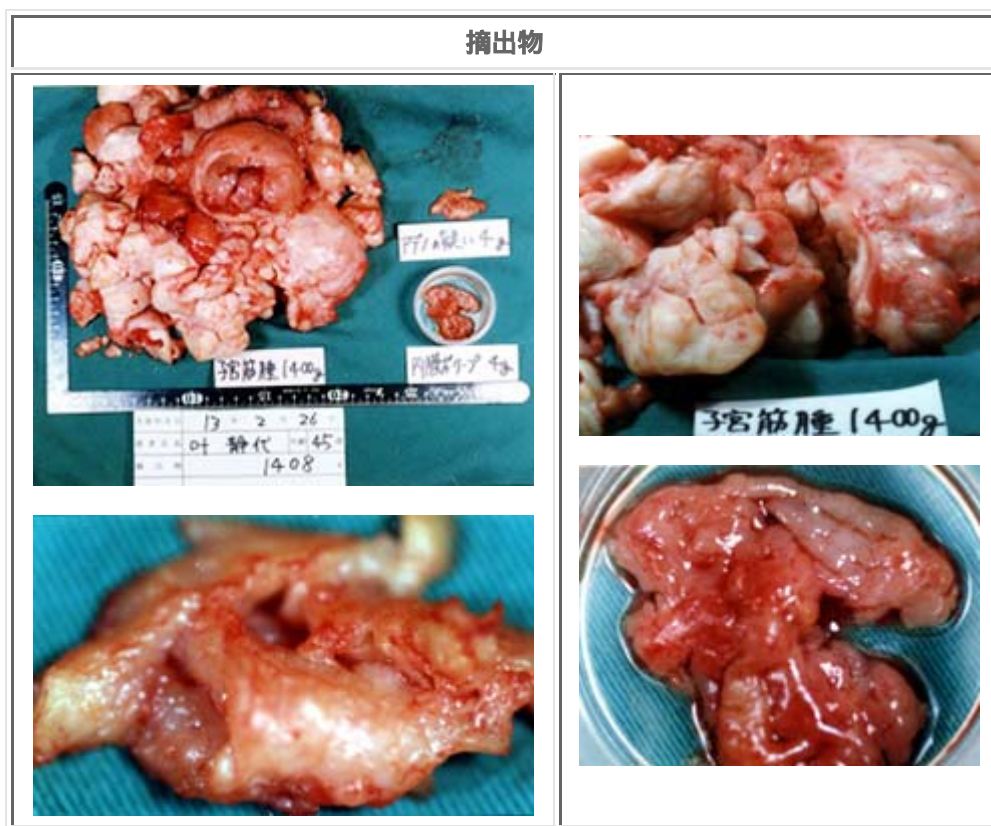
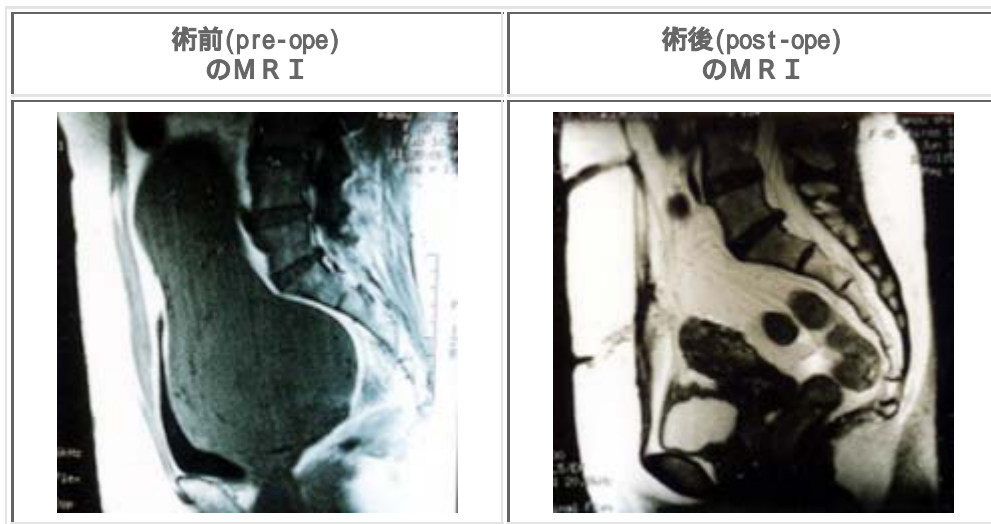
女は子宮を体に備えて生まれて来るのだから、それを簡単に取り除こうという考えは間違っていると思います。人間の体には不必要な部分などひとつも無いはず。摘出しないと死ぬ！という病気にかかってしまったなら別ですが、筋腫はガン化する可能性はとっても低い、良性の腫瘍のはず。患者が子宮を残す治療を望むのは、当たり前ではないでしょうか？

また、子宮を摘出すれば子宮ガンリスクを回避できる、と説明する医師もいるようですが、それにも「？」と思わざるを得ません。子宮を摘出しても「子宮ガン」という名前のガンが無くなるだけで、ガンにかからないわけではないのです。ガンは体のあらゆる部分に発生します。では、そのリスクを回避するために体を無くす？そんな事は不可能です。

腕に出来た黒子状のもの、将来ガン化するかもしれないので腕を切り落としましょうとか、胃に出来たポリープ今は良性ですが予防の為胃は全部取っておきましょうとは言わないはず。ガンの予防のためにも子宮を摘出しましょうというのは、医師の詭弁以外の何者でもないでしょう。

ただ、摘出手術を迫られ、オロオロしている患者の背中を押すための言葉だと思えます。また全摘によるホルモンバランスの異常について訊ねると、子宮を取っても卵巣が残っているからホルモンバランスが崩れることもなく、更年期障害のような症状も殆ど出ませんよとのこと。でも以前女性のホルモンは生理を境にして入れ替わると聞きました。子宮が無くなって生理が来なくなったら何を境にホルモンの入れ替わりが起こるの？医師の言う答えに未だに疑問を持っています。

詭弁を弄する事無く、治療に対して真摯な姿勢を貫いている斎藤先生。斎藤先生の考え方や治療技術が後世に受け継がれる事を願ってやみません。将来の悩める女性のためにも・・・。



	術前 (pre ope)	術後 (post ope)
赤血球 (RBC)	432	457
血色素 (Hb) (g/dl)	13.8	14.5
ヘマトクリット (Ht)	40.2	44.2
CA-125	22	
備考	あまり症状は無かった。	



## 「絶対子宮を残したい、この一念が「広尾」との距離を克服しました。」

山下留理子（35才）

私は、九州は宮崎在住で、「広尾メディカルクリニック」のある神奈川県鶴見区からは遠く離れています。あまり国内の遠方に行かない方にはピンを来ない距離だと思いますが、宮崎 - 羽田は、飛行機で1時間半くらいかかります。地元にも婦人科はありますし、大学病院だって近くにあるのですが、私は「広尾メディカルクリニック」が、自分にとって最良の選択だと思い、手術を受けました。

## 友人の心配をしていたら・・・

私は中学2年の初潮から20代半ばまで生理痛・腰痛がありました。20歳頃、心配になり近所の婦人科で診察を受けましたが、年齢ともにホルモンバランスが整ってきたら治まると言われました。実際にその通りになり、生理痛はほとんど無くなったので、「自分の生理はこれで大丈夫。」と安心していました。

ところが、平成6年、28歳頃、生理に急激な変化が見られました。元々出血は少し多かったと思うのですが、始まりの1日にオシッコのような“ジャーッ”という出血があるのです。この大量出血のお陰で1時間おきにトイレに行く始末。昼間からナイト用のナプキンを使い、充分気を付けているのに失敗した事も。始まりの大量出血の後は、出血がだらだらと1週間ほど続くという生理でした。

このとき、私の友人が子宮筋腫と診断され、私は散々心配し、世話を焼いていたのですが、私の症状をこの友人に話すと「あなたの方が症状が重い気がする。マズインじゃないの？」と指摘されました。恐る恐る病院で検査を受けたら、どうやら私の方が重症のようでした・・・

## 「広尾メディカルクリニック」までの経緯

- 平成8年5月  
地元「Hクリニック」で初診。詳しい検査のため、更に1週間後再診。この時、筋腫と診断。3ヵ月後にもう1度来るように言われましたが、治療の方針や説明は全く無く、何のために行くのか分からないので、ここはこれっきり。
- 同年8月  
地元「N産婦人科医院」にて診察。エコーで検査の後、筋腫が13cmほどだと分かり、手術を勧められ、というより手術するのが当たり前のように手術日程までトントン拍子に決定。2日後に術前検査。このとき、私の筋腫は「できている場所が悪い」と言われました。ひょっとしたら核摘出手術では取り切れないかも、とも言われましたが、この時の私は「手術さえすれば治る。」と勝手に思い込んでいました。
- 同年9月  
手術を受けました。が、術後、病室で目を覚ますと、ベッドの側で母がシクシク泣いています。泣いている母を見て「ああ、全部取れなかったんだな。」と悟りました。そのほんの少し取れた筋腫を看護婦さんが見せてくれた時に、「治らなかったんだ」という実感が急に胸に押し寄せ、私も泣いてしまいました。

術後はスプレキュアでホルモン療法をしました。9本終わった時点で6cmほどに小さくなっていましたが、スプレキュアを止めると、みるみる元通りの大きさに。その後、2月に再度スプレキュアを再開しましたが、筋腫に対してはほとんど効果はありませんでした。ただ、生理が無くなり、大出血が無いという事だけが救いでした。

その後、平成10年7月まで、何をしても・期待するでもなく、2週間に1回、経過観察のため、エコー検査、貧血検査と子宮癌検査をするために、この病院に通い続けましたが、だんだんと「このままどうする事もできない。」「いずれ全摘出するしかないんだ。」という思いが膨れ上がって、通院がとてつもなく苦痛を感じるようになり、とうとう通院を止めてしまいました。

- 平成11年1月  
我が家にパソコンとインターネットを導入。私は自分の病気について調べました。その過程で、「広尾メディカルクリニック」のサイトを発見。私の心の中では「ここがあるなら大丈夫。」という、確信に近いヒットでした。

- 同年8月  
夏休みに「広尾メディカルクリニック」での初診を受けに一人神奈川へ。東京在住の友人が「そんな怪しげな。心配だから一緒に行く。」と言って、同行してくれました。私が診察を受けている間、友人は応接室のような待合室で、看護婦さんにお茶をいただいて待っていてくれました。診察後、怪しんでいた友人は「自分も悪くなったらココにかかる。」と言うほどの「広尾派」に。この時の斎藤先生は無口でチョッピリ怖かったけど、先生の説明や今までの実績で私自身は大いに納得し、「ここで治療する。」と決めました。

手術前に家族を説得せねば・・・。家族に対してどう説明しようか考えていたら、斎藤先生が手術を受けた同郷の方を紹介してくださって、「話を聞いてみるといいよ。」と。地元に戻り、まず両親に「広尾」で自分の筋腫を治療したい事を告げました。もちろん反対されました。インターネットで見つけた保険が使えない病院なんてとんでもない、というのが理由です。この時の父のうろたえようというか、引きとめようが笑ってしまえるくらいでした。

父は「知人の姪っ子が医大にいるから、いい先生を紹介してもらえよう頼んでみる。だから地元でいい病院を探してみろ。」と言い出しました。私自身、普通の病院では自分の筋腫は治しきれない、残された道は子宮全摘出に続いているのだと分かっていたので、誰に何を言われようと「広尾」で治療を受ける決心は揺らがないのですが、父は父で私のために必死です。頭ごなしに「そんなのダメだよ。」と否定するわけにも行かず、「そのうちね。」などとノラリクワリとかわしていました。

母は表面切ったの反対はせず、何も言いませんでしたが、その心中は父に近かったと思います。こうなったら、やはり手術を受けた方に話を聞くのが一番だろうと、両親を揃えて、斎藤先生から紹介された方に電話をしました。その方は快くお話をしてくださり、母の話にも応じてくださいました。母は納得してくれ、父は私と母の電話を聞いて、それだけで納得してくれたようでした。

仕事の休みがなかなか取りづらく、今回の診察は翌年の3月になってしまいました。この時は母も同行し、一緒に診察室で説明を聞きました。母は、私のポッコリしたお腹とエコーの画像を見て驚いていました。別に隠していたワケではありませんが、あんまり大袈裟に見せるものでもなかろうと、今まで見せた事がなかったのです。入院患者さんの摘出物のバッグを見せてもらい、「あなたのはこれより大きいよ。」と言われ、さらにビックリ。それでも私の筋腫が、子宮を残してキレイに治してもらえると分かった母はすっかり安心し、診察の後は二人してディズニーランドで遊んで帰りました。

## 手術、そして現在

- 平成12年7月17日  
手術。全然消化しきれていなかった有給休暇を一気に取って、会社を1ヶ月休みました。術後は、以前の核摘出手術よりカラダが全然楽でした。ただ、ちょっと貧血のようにフラフラしたりしましたが、それは次第に治まりました。本当に「広尾」の術後経過は楽でした。退院が早いのも納得できます。

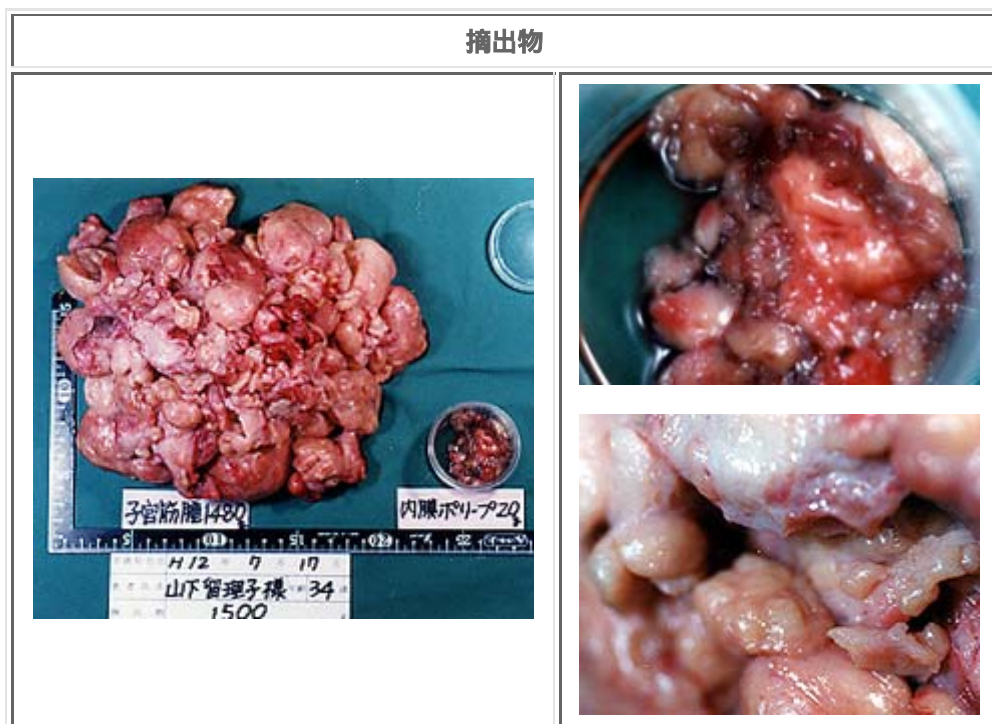
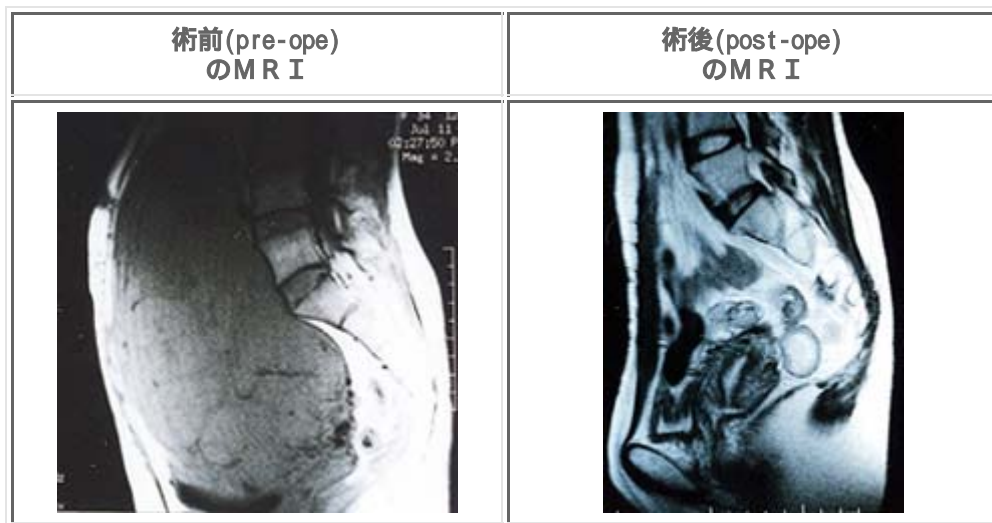
斎藤先生は、初診時の印象とは打って変わって、「手術したら男運が変わるんだよ。」などと冗談まじりで励ましてくれる、温かい先生でした。母も術後は先生を見る目がハートマーク。「あんな先生もいるのねえ。」と惚れ惚れ。父は何だかんだ言って、私が子宮を残して治療できた事を一番喜んでくれました。私自身はもちろんですが、家族全部が幸せになれたように思います。

でも術後の傷の処置はNG！あまりの傷の生々しさにピンセットを持つ手が震えてしまいました。が、それも1週間そこの辛抱。あまり傷をマジマジと見ないようにしつつ、術後の処置を続けました。そんなこんなで8月26日に、術後初めての生理が。それまで40日周期くらいだった月経周期がこれを期に30日くらいの周期になり、生理期間も2～3日、量も少なすぎるように感じ「これでいいのかな？」と思うほどです。

現在、あんなに私を苦しめていた大出血は全く影を潜め、至って健康！後は、先生のおっしゃったように「男運」が良くなるのを期待するだけとなっています。会社に復帰しても、あまりにも普通に元気なので、「手術したんでしょ？大丈夫？」という風には気遣ってもらえませんでした。それはそれで凄い事なのですが・・・。

九州の片田舎から神奈川まで、私をはるばる手術を受けに行かせた衝動は何だったのか、自分なりに振り返って考えてみました。やはり女性として、何歳になろうと子宮を全摘出するのは絶対にイヤだという一念に他ならない、と思います。残せる技術があるなら残したい、いや残すべき。

なぜ齋藤先生の技術が普及しないのか、不思議でもあり残念でもあります。一人でも多くの悩める女性に、齋藤先生と広尾メディカルクリニックを知ってもらい、自分にとって最良の選択をして欲しい、と心から思います。



	術前 (pre ope)	術後 (post ope)
赤血球 (RBC)	434	461
血色素 (Hb) (g/dl)	11.0	13.1
ヘマトクリット (Ht)	34.1	40.8
CA-125	30	
備考	頻尿の他あまり症状はなかった。	

「"広尾"での手術を受け、子宮は簡単に摘出するべきではないと強く思いました。」

M.T. (33才)

### 軽く考えていた私の症状について

私は20代初め頃まで、自分の生理は普通だと思っていました。「広尾」での手術を終えて1年ほど経つ現在、振り返ってみると、学生時代から出血は多かったようです。生理中に自転車に乗るとスカートに染み出したりしていましたから・・・しかしそれも、他人と比べたり軽々しく話せるような話題ではなかったため、「たまたま今日は多かったんだ。別に痛くないんだし、普通なのよ。」と思い込んでいました。

20歳まではそんな感じで、生理の時もそうじゃない時も大差なく過ごせていましたが、20代前半頃からだんだんと痛みが現れ、それでも「ちょっと痛むなあ」程度だったので、薬は服用せずに済んでいましたが、段々と耐えられなくなり、市販でも強い薬「パファリン」や、「セデス」を飲むようになってきました。

25か26歳の頃、「この痛みは尋常ではない。」という程に痛みが激しくなり、イヤだったけど婦人科へ。婦人科にかかる前に、女性雑誌の「婦人病の特集記事」を読んだりして、自分の症状はどんな病気の可能性があるのかしら？とチェックしてみると、私の症状は「子宮内膜症」に最も近かったので、「ああ、きっとこの病気なんだろうなあ。」と思いつつ、病院へ行きました。

### 医師や治療が信頼できず、病院を転々とする日々

1件目の婦人科は総合病院でした。初診は年もちょっと変わらないくらいの若い先生でした。正直そんな先生に見てもらうのは死ぬほど嫌でした。診察の結果、やはり「子宮内膜症ですね」と言われ、ホルモン療法を行う事にしました。

私は会社の休みが土日なので、普段は土曜日しかこの病院には行けませんでした。ホルモン療法も2クール行ったのですから、一年半以上はこの病院にかかっていたこととなります。最初見てもらった先生は感じ的には良い先生でしたが、その先生は土曜日担当ではなく、土曜日の先生は結構横柄で、質問もしづらそうな人でした。好ましいタイプじゃなかったところに、他の曜日の先生の印象があまりにも良かったので、何となくその病院からは足が遠のいてしまいました。病院を変えようと思い、不妊治療やお産で有名な産婦人科を知っていたので、そこにかかってみることにしました。

2件目の婦人科。ここではまず、待合室が憂鬱でした。お腹の大きな幸せそうな妊婦さんに囲まれて、治癒するかどうかわからない病気を抱えて、悲壮感漂わせながらひたすら待ち続ける居心地の悪さ。さらに診察室がまた憂鬱。何と、診察室と内診台の仕切りがヒラヒラのカーテン1枚なのです。大待合室から数名呼ばれて、診察室内の長椅子にて待機・・・ここまでは割とどこの病院でもありがちなのですが、この数名の待合患者に、内診している様子や診察の様子が『丸聞こえ』なのです。

1度などは、若い女の子が性病だというのが聞こえてしまい、「私はココに居て良いのだろうか？」と、私が悪いわけでも何でもないのに、罪悪感すら感じてしまったものです。この病院では、ボンゾールと言う経口薬を服用するよう指示されたのですが、療法の最中に少しずつ出血するようになりました。それが2～3週間も続いたので、さすがに怖くなり、医師に相談しました。

ところが、止血剤を処方されただけで、薬を変えようとか、治療をどうしようという話は一切無く、不正出血していても「続けなさい」とそれだけです。「そんな話はあるの？」と恐ろしくなり、一気に不信感が湧き出して、結局この病院も行くのを止めてしまいました。

3件目の婦人科。個人病院でしたが、看護婦の友人が勧めてくれた病院でした。前の病院も個人病院でしたが、ここは今までで一番マシで、先生の診察や説明も丁寧でした。前の病院でのいきさつを話すと、先生から「薬が合わないようですね。他の治療に変えましょう。」と言われ、今度は注射のホルモン療法（リュープリン）を試しました。心配していた出血も止まり、生理痛もなく毎日が快適でした。

ただ、やはり治療が終わると、又生理痛が襲ってきます。1件目の病院から思っていたのですが、ホルモン療法が終わって生理が始まると、生理痛や出血が前回より酷くなっているような印象でした。薬の力で生理を無くし、仮初めの幸せを味わった後だから、余計に酷く感じるのかな？と思ったりもしましたが、鎮痛剤の効き目は明らかに悪くなっているし、ナプキン使用量が多くなっているし交換時間も短くなっている、出血も増えているのに違いありませんでした。こんな調子なので、旅行だなんだというイベントには、絶対生理が当たらないように、日にちを計算して、絶対大丈夫な時期で無いと遠出もできませんでした。

先生に問いあわせても、「この病気にはこの治療しかないからね。」と歯切れの悪い答えばかり。何回もホルモン治療が続くと、体の方が心配になってきます。ホルモン療法が終わってからは何ヶ月かは治療が出来ないので、病院でもらう痛み止めをストックしては、療法が終わったらずっと病院に行かないで溜め込んだ痛み止めを使って生理痛をガマンする・・・ということを段々で行うようになっていきました。

しばらく経ってから病院へ行くと、前よりもっとひどくなっている感じでした。内診やエコーの検査では、「筋腫があるかもしれない」と言われ、先生が「手術も考えた方がいいかもね」と言い始めました。しかし、私は手術だけは絶対イヤだったので、又病院をさぼるようになりました。「これは体にいいよ」と言う民間療法も色々試しましたが、どれを試しても良くなり、結局は時間とお金の無駄だったかもしれません。

## 時間とともに悪化する症状

PMS（月経前症候群）らしき症状も年々ひどくなり、生理前になるとお乳やお腹が張ってきます。イライラするし、生理はまだ先なのに、お腹が生理が始まる2週間位前から痛むようになってきました。そして生理が始まると、あまりの激痛に吐き戻して、ゲッソリ痩せ、終わるとその分体重が戻るという繰り返し。薬を飲むから何か食べないと胃が荒れるというのに、食べると吐いてしまうなんて・・・。

生理休暇を取ったり、土日で会社に行かなくて良い時は、なるべく薬を飲まず、脂汗をだしたら流し、転げまわりながら痛みに耐えていました。最初は1日だった「痛み期間」が段々と長引いて、3日も4日も痛むようになりました。生理休暇はそんな長々と取れないので、とりあえず会社に行かなくてはなりません。会社まで車通勤だったので、車に乗りさえすれば何とか会社まで辿り着けました。帰りも這うように車に乗り込み、必死の思いで帰るのでした・・・。

さすがに「これはやばい！！」と思うようになり、又病院へ行きました。今度は先生から「精密検査をした方がいい」と言われ、MRI検査を受けました。MRI画像を見た先生が「前に筋腫と言ったけど、筋腫じゃなくて腺筋症だね。」とおっしゃり、私の病名は「子宮腺筋症」と確定されました。

このころ、インターネットで腺筋症について調べ始め、「広尾メディカルクリニック」の事も知っていましたが、インターネットに出てるクリニックなんて怪しいかも・・・？と思い、後回しにしていました。

ところが、かかっている婦人科の先生から「腺筋症の根治は全摘出ししかないが、独身だし若いので、子宮は残してあげたい。それには筋腫の部分だけ切除して、またホルモン療法を続けるしかない。」と説明されて、大ショックを受けました！！こんなに長くホルモン療法を続けてきたのに、手術しても治らなくて、さらにまた、ホルモン療法を続けるのかと考えると、「絶対にイヤ！」の一言でした。

私はホルモン療法の副作用が軽く、ほとんど出ないタイプでしたが、色々と副作用の話は耳に入ります。さっさと治してホルモン剤や鎮痛剤から手を切りたいのに・・・。一生ホルモン剤と縁が切れないのかと思うと、本当にイヤで、まだ独身でその頃つきあっている人もいなかった私は、「結婚もあきらめた方がいいのかもしれない」と真剣に思い悩みました。

その頃、前にインターネットで見た「広尾」のことを思い出し、どうしようかと散々悩みましたが、手術した人の体験談が色々だったので、もしかしたら私の病気も直せるかもしれないと思い、とりあえず診察だけでもしてもらおう、怪しかったら止めればいい。そう思って母に相談しました。母は私に輪をかけて散々怪しましましたが、体験談などを読んでもらい、渋々、「初診ぐらいなら」と承諾してもらい、鶴見まで一緒に来てもらいました。2000年3月頃の事です。

## 広尾へ、母と一緒に

前の病院へは一応承諾をもらい、MRIの画像も借りることが出来ました。私は子宮が残せて自分も健康になれるなら・・・と必死の思いでしたが、母はおよそ病院らしからぬクリニックの建物や、静かな雰囲気に、ますます引いているようでした。そして斎藤先生の診察。

最初は「なんてコワーイ先生なんだろう・・・。」と思い、ビクビクしていましたが、お話しを伺っているうちに平気になりました。先生は、「子宮を残して治せますよ。」とアッサリおっしゃいました。私は「すぐれる藁を見つけた！」と、それだけで気持ちが一杯でしたが、ふと母の様子を見ると、正直者というか、気持ちがすぐに顔に現れる人なので、あきらかに怪しんでいるのが見て取れます。幸い初診の日は金曜日でしたので、先生がお茶会に誘ってくださり、母と二人して参加させていただきました。

あれほど怪しんでいた母は、実際に手術した患者さんと接し、色々なお話を伺い、結局は納得して賛成してくれました。私もイキイキと楽しそうにしている患者さんを見て、改めて「すごいなあ、ココ・・・。」と思い、安心しました。やはり、病院の評判というか、どういう治療なのかを知るために、実際に治療を受けた患者さんのお話しを伺うのが一番ですね。でもそのために、診察で来た人と入院中の患者さんを会わせるというのは、スゴイことです。普通、できない事だと思いました。

手術は3ヶ月先の予約。半年～1年待ちという今の状況から考えるとラッキーなのですが、当時の私には気が遠くなるような時間でした。それでも手術すると決め、術前検査を佐々木病院で受けるため横浜に泊まった時のこと。明日は検査だというのに生理が始まってしまい、またあの痛みと大出血が・・・！！薬を飲むから何か食べないと・・・と思ったのですがMRI検査も受ける予定だったので、前日は絶食です。どうしよう～～どうしよう～～と痛みを耐えつつ、やっぱり薬を飲まずには居られないので、何か少しだけ食べて、薬を飲み、その夜は耐えました。

次の日はタクシーで佐々木病院まで。生理の痛みと吐きそうな気分の悪さをガマンして、ようやく検査終了。またもタクシーで検査結果を「広尾」まで持っていったら、もうグッタリです。受付の看護婦さんに「気持ち悪いんで休ませて下さい。」と訴え、別室で休ませてもらいました。

その日、またしても金曜日でお食事会&お茶会でした。具合が悪くなった私のために、わざわざ昼食のお寿司を用意していただいたというのに、吐き気のため全然食べたくありません。普段なら大喜びでいただくのに・・・。でも薬を飲むために食べなくては思い、ほんの1つか2つお寿司を頂き、薬を飲んで休んでいました。

だんだんと薬が効いてきて痛みが薄れてくる、あのタイミング。「帰るなら今しかない！」とばかりに、かなりソクサと帰ってきてしまいました。とにかく帰ることだけ考えて必死だったので、帰路のことはあまり覚えていません。とにかくよくタクシーに乗ったという印象だけ。まったく散々でした・・・。

## 手術～職場復帰まで

生理のたびに激痛と吐き戻しに苦しんでいる私を見ていた母は、手術に賛成してくれた上に費用まで出してくれると言ってくれました。母も昔は多少出血が多かったようですが、閉経まで婦人科の病気にはかからず、逃げ切れた？人でした。その前の年に妹を病気で亡くしていたので、やはり「私だけは何としても！！」と言う気持ちも強かったのかもしれません。そんな母の気持ちに感謝しつつ、すっかり手術費用はお願いしてしまいました。

手術のため、会社に休暇を申し出たときの事。単に休むとだけ言えばこれほど腹立たしい思いはせずに済んだのでしょうけど、やはり正直に入院すると伝えました。直属の上司はもともと社内的な評判も良くなく、私も好きではありませんでしたが、入院すると言ったのに私の体の事などカケラも心配せず、ただ仕事の心配だけ。無性に腹が立ちました。涙が出るほど腹立たしかった言葉もあったのですが、余りにもひどい言葉だったので思い出せません。

よその課の上の方でさえ退院した後になって、「入院してたんだって？大丈夫？」と、私を気遣う言葉をかけてくださったというのに。男性の多い職場なので、理解するのは無理でも、人として、心配する素振りくらい見せてくれたってバチは当たらないでしょうに。働く女性として、こんな思いをしたのは私だけでは無いと思いません。

手術当日。私は一番最初でした。あれよあれよと準備が進み、麻酔でぐうぐう寝ている間に手術は終わっていました。翌日、喉の渴きは強烈で、看護婦さんからお水を貰う前に、トイレでコソコソ口を湿らせてしのぎました。

お腹から取り出したモノが大きかったせいか、元々の状態が悪かったせいか、食欲が全然湧いてきません。同じ日に手術した方々が、元気そうで食欲も結構あったのに、私はいつまでもヨロヨロしていました。食べられないから体に力も湧いてきません。どうしよう・・・。こんな事で土曜日に退院できるのかしら？

関東在住と言っても、電車で2時間以上かかる所に住んでるので不安でした。結局私は金曜日、お食事会のお寿司もろくに食べられず(なんと二度目!もったいない・・・)、ヨロヨロしたままの退院となりました。帰りは母が病院まで迎えに来てくれるはずだったのですが、斎藤先生が上野駅まで送ってくれると言うので、もう一人の患者さんと一緒に、先生の車に乗せてもらいました。このとき、たまたまいらした先生の息子さんにもお手をかけて、私を上野駅の改札口まで連れて行って下さいました。私は、上野まで迎えに来ていた母に無事引き渡され、必死の思いで自宅へ帰りました。

術後は1週間会社を休み、自宅で静養したのですが、出社した時はまだフラフラでした。食欲はそこそこ出てきたのですが、まだ力が出ません。傷も突っ張るように痛いし・・・。会社の女性スタッフには「もう少し長く休めばよかったのに・・・」と言われました。実際そうしかかったのですが、2週間と休暇を申請してしまった手前、それ以上休むわけにも行かず、なるべく動かなくていいように、デスクワーク以外の仕事はサポートしてもらいながらの辛い職場復帰でした。それが3週間目を過ぎる頃からググッと回復に向かい、今までは一体なんだったのかしら?というくらい、食欲も体調も上向いてきました。やっぱり3週間休めばよかった・・・。

## 術後の変化 生理・貧血・心

術後の生理は、術前とパターンが変わっていて、ちびちびちび・・・と出血が始まり、3~4日目にドバっと(と言っても今までよりずっと少ない)出血、またちびちびちび・・・と終わっていくというなんだか不思議な生理でした。痛みは無く、出血もずっと少なくなっていました。

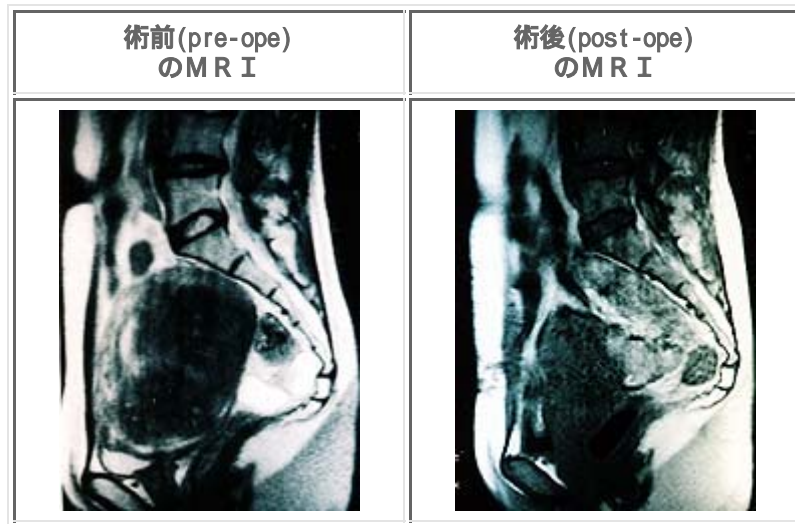
術後4ヶ月くらいで術後の検査を受けました。このとき、この変調な生理について先生に尋ねたら「まだ手術して間もないから仕方ないね。そのうち落ち着くんじゃないの。」と言われ一安心。実際に半年経つ頃には普通の生理(1~2日目が多く、あとはちびちび)に落ち着いていきました。本当に出血も痛みも軽減し、普段通りの生活ができます。術前はひどかったPMSらしき症状も、少し軽減したようです。

今、生理になると腰が少し痛みます。以前から痛かったはずなのですが、「広尾」での手術前は腹痛でそれどころじゃなかったのが、気付かなかったのだと思います。薬を飲むような大袈裟な痛みではないのですが、やっぱり気になります。PMSらしき症状と腰痛は、今後、自分で何とか解決したいと考えています。

血液検査の結果も、元々貧血の数値ではなかったのですが、術後のヘモグロビン値はアップしていて11.4だったのが14.4になっていました。あんなに出血がひどく、大きな腺筋症があったのに数値的に貧血になっていなかったのは、斎藤先生に言わせると「あなた、少しにぶいんじゃない?」っていうくらいの幸運みたいです。おかげで輸血せずに手術できました。今はすっかり元気になって、働く事はもちろん、結婚や出産に対しても、昔みたいな絶望感は無くなりました。

自分はある意味、斎藤先生に出会えてラッキーだったけど、自分の身近でも同じような病気で子宮を摘出してしまった人がいます。その人は子供を産んだからもういらないと断っていました。やはり先生や広尾で出会った人達に聞くと、それは間違いだと言うことに気がつきました。そして、その間違いがまだ、まかり通ってる世の中が怖いです。本当は、広尾の様な手術が当たり前のように受けられる世の中になってほしいものです。それから、斎藤先生、本当にお世話になりました。これからも私と同じように悩める女性を救うため、頑張ってくださいね!





	術前(pre ope)	術後(post ope)
赤血球(RBC)	423	487
血色素(Hb)(g/dl)	11.9	14.4
ヘマトクリット(Ht)	35.5	40.7
CA-125	>500	23
備考	子宮腺筋症	

## 「医療の質を自分で選択しましょう」

山下厚子（36才）

## はじめに

子宮内膜症や子宮筋腫の治療をしている方は、いま通っている病院をどのように選びましたか？自宅に近いからですか？通勤に便利だからですか？有名な大きな病院だからですか？また、なぜいまの治療を行なっているのですか？主治医の先生に言われたからですか？保険が効くからですか？みんながやっている治療方法だからですか？それはあなたの人生設計や願いに沿った治療方法ですか？

私たちが受ける診断と治療の質は決してどこの病院でも同じではありません。また、医師の経験、技術、知識、情報、医療に対する情熱や患者を思う愛の心にはそれこそピンからキリまであります。私は地元の市立U病院で誤診され、きちんとした説明のないまま治療を続けたうえに、危うく子宮全摘出になるところでした。

“広尾メディカルクリニック” 子宮を保存したい、健康になりたい、晴れやかな心を取り戻したいというあなたの願いを叶えてくれる医療がここにありますから、どうか御自分で納得のいく医療を選択してください。総合医療病院で10年間医療の現場に従事してきた私が、子宮筋腫の患者となって様々な病院を見て、聞いて、感じてきたことをお伝えしたいと思います。

## 誤診？

平成12年の9月、第2子を6～8週で流産し不正出血のため地元の市立U病院で診察を受けました。A女医から「子宮腺筋症なので受精卵が定着せず流産したようです。ホルモンのバランスが崩れて出血しているかもしれません。止血するためにホルモン剤（中用量ピル：ドオルトン）を処方します。様子を見ましょう」と内診で診断されました。過多出血と腰痛がおもな症状です。第2子を希望していることも伝えました。

その後1ヶ月間ピルを服用しても、1週間以上続けて出血が止まることはありませんでした。それでも「腺筋症の治療にも同じピルを使いますから」といわれ、さらにピルを飲みつづけました。まさか、後々に医師とホルモン療法に対し不信に陥り、しかも腺筋症という診断は筋腫の間違いであったとは「広尾」に行くまでわかりませんでした。

**ピルは、エストロゲンとプロゲステロンの合成ホルモン剤です。**

妊娠中は内膜症（腺筋症）の病巣が縮小することから、人工的に妊娠している状態をつくり症状を改善しようとするものです。二つの女性ホルモンが体内に十分（プロゲステロン優位）あると脳が錯覚し、自分のホルモン分泌を休み、子宮内膜自体が厚くならないのです。排卵もなくなります。「消退出血」という仮の月経でも子宮内膜が厚くないので出血量が少なく月経痛も楽になり、過多月経や月経困難症の対処療法になるのです。偽妊娠法といわれています。

## きちんとした検査も説明もない治療

突然出血して、あわてて電話しても「生理が始まったのではないですか？今度の診察日に来てください」とのつれない返事。「階段がしんどい」と訴えれば「貧血のようですね」と血液検査し、「鉄剤を飲みましょう」と貧血の治療も加わります。何かある度に通院し、長い時間待って初めて説明を受けますが、その場限りの目先の説明しかありません。現在の病状の認識と治療方針の説明、病状の経過、今後の可能性や詳しい検査など全般的な見通しが一切ありませんでした。

2ヶ月経っても出血は止まりません。「止血のためにピルを飲んでいるのになぜ止まらないのですか？」と尋ねても、「ハッキリとはわかりません。たぶん腺筋症があるからでしょう。今までは基礎体温が高温期だけのピルだったので、低温期もあるピルも追加します。基礎体温もつけてください。生理に近い状態にして、排卵がうまくいくと生理が始まります。」との期待を持たせるような説明。さらに、2種類目のピル（プレマリン）を追加処方されました。

しかし、その後も一向に病状が回復することはありませんでした。始めの病状がわからないのですから、現状がどうなっているのかも判りません。むしろ悪化しているようにも感じられました。当初からあったレバー状の出血もますます勢いを増し、トイレや風呂場から20～30分は動けないことも多く、日常生活にも支障がでてきます。階段の昇り降りもできず、肉体的にも精神的にも辛く悲観的になってきました。

## セカンドオピニオン

新年に実家の大阪に帰省したとき、T総合病院でセカンドオピニオンを求めました。B医師の内診によれば、「たぶん腺筋症でしょう。しかし、出血が止まらないなら筋腫かもしれない。一度、ガン検査、MRI検査をしたほうがいい。MRIでも腺筋症か筋腫の区別は難しい。もし、腺筋症なら全摘になるでしょう。」とのこと。また、「いま出されているプレマリンは、悪化させる場合もあるのでやめた方がいい」とも言われました。ここでの診断は、内診では確定診断はできず推定であること、ガンの可能性、検査の必要性、治療の効果、最悪の場合などを的確に筋道をたてて説明してくれました。しかし、あまりにも段取りが良すぎて、もしここに通院していれば、早い時期に全摘手術が実施されていたかもしれないと後日述懐しています。

### プレマリンは卵胞ホルモン（エストロゲン）剤です。

内膜症や筋腫は、エストロゲン依存性疾患として挙げられているので、エストロゲンを投与すると悪化させるのではないかということです。

## 自制心の限界

再び地元の市立U病院で、「出血が止まらないのはどこか悪いところがあるのではないですか？検査してください。」と頼みました。初診以来、内診と貧血のための採血ぐらいしか検査はなかったのです。「いま、子宮は2～3倍の大きさです。内診ではどこも悪くないので検査の必要はありません。あなたは腺筋症なのだから止血するのが先決です。止血作用の強いリュープリン注射を打ちましょう。」と、リュープリンの副作用、6ヶ月の期間限定、注射終了後は子宮の大きさは元に戻ることに、効果の程度はやってみなければ判らない、などの説明を受けました。

なぜそんな注射を打たなければいけないのか？本当はもっと悪い病状なのではないか。貧血を繰り返し、度重なる出血にも辛抱してきましたが、ついに今まで自分を支えてきた自制心がガクッとくずれ、A女医の前で泣き伏してしまいました。あわてて男性の婦人科部長のC医師（不妊専門）がとんできました。「今までのピルは何だったのですか？」「ホルモンのバランスを整える薬でした。」「（そんなバカな。話が違う。止血と腺筋症の治療だと言ったはずだ！）。」「リュープリンは子宮を小さくし、止血させる注射です。腺筋症を治療しましょう。」「やめれば、元に戻るなら意味がないじゃないですか。」「意味があるかどうかはあなたが決めることだから、あなたが選択してください。」「知識もないのに解かるわけじゃないじゃないですか！（何を言ってるんだ！）。このままで出血は止まるのですか？このままでは子供はできにくいのですか？」「あなたは昨年妊娠しているので不妊ではない。3年以上妊娠しない人のことを不妊と言うのです。」「（話を誤魔化すな！そんなことを聞いてるんじゃない！）」

妊娠するために、出血を止め腺筋症の治療をしているものと思っていたので、副作用があり、使用を止めれば元に戻ってしまうリュープリンの使用などする気はありませんでした。どうやらA女医は、今までは月経困難症の治療を念頭に置き、ホルモンのバランスを整えうまく妊娠すれば、腺筋症は治ると考えて治療をしていたようです。考え直してみれば、初診から2ヶ月後にプレマリンを処方された時点で、「出血が止まらないのは腺筋症があるからではないか」と言っておきながら、ホルモンバランスを整える治療を行っていたことがおかしなことにも思えます。失意のうちに病院を後にし、トンでもないことになったと感じ始めました。

「妊娠は治療になる」という考え方がいまだにあるようですが、内膜症などの疾患があれば妊娠自体が難しく、妊娠しても治癒しません。また、治療のために「妊娠する」ことは、一般的に妥当な治療方法とは言えません。内膜症や筋腫は、エストロゲン依存性疾患とも言われています。確かにエストロゲンは内膜症が成立するための必要条件の一つではありますが決定的なものではありませんし、筋腫ほど単純反応でもありません。

一方、筋腫は妊娠中に、大きくなることから、エストロゲンよりはむしろプロゲステロンの影響があるのではないかとされています。残念ながら、未だにエストロゲンやプロゲステロンが筋腫の増殖にどのように関わっているか解明されていません。どちらにしても、内膜症と筋腫はまったく違うものですから同じように論じられることは間違いです。

ホルモン剤の投与という考え方も効果に疑問があります。ピルによって内膜症が完治したり、筋腫がなくなったりすることはありません。ホルモン剤の投与は、効果がある人にとっても時間稼ぎにしかならないのです。子宮全摘手術までの……。このことを処方前にきちんと説明してくれる医師は少ないようです。

## サードオピニオン

しかし、今までの治療方法やA女医やC医師に不信感があるものの、このまま放置してはいけないと思い、自宅近くの個人産婦人科病院のD医師にリュープリンについてサードオピニオンを求めました。「あなたの年齢で子供が欲しいなら急いだ方がいい。間違った治療ではない。当病院にはリュープリンは置いていないので、市立U病院で治療するしかない。プレマリンは悪くする場合もあるのでやめたほうがいい。」とあまり関わりたくないようでした。

36才という年齢で第2子を望む私にとって、「時間に余裕はない」と言葉が焦りを生みました。元看護婦である私にとって、強い副作用があるとわかっている注射をすることは苦渋の選択でした。出血が続いていたので、市立U病院にて仕方なくリュープリン治療を始めました。

## 「広尾」との出会い

しかし、2回のリュープリン注射を打っても出血が止まる様子もなく、さすがにA女医も「これはおかしいのではないかと」気づき、4月10日にMRI検査となりました。これを聞いた主人が、ようやく重い腰をあげてくれました。今まで静観していた主人が「MRI検査をすれば、決して“正常です”とはならないだろう。なにか問題がでてくるはずだ」と考え先手を打ってネットで腺筋症について調べてくれたのです。

3月30日の深夜のことでした。翌朝起きてみるとコタツの上に何やら印刷物が置いてあり、「それを読んでごらん。」と主人。それは「広尾」で治療を受けた方々の体験談でした。それからが人生の軌道を変える大仕事でした。私は、大阪での看護婦時代の同僚や元上司、あらゆるツテを使って、腺筋症治療の医療の現状と「広尾」についての情報を集めました。主人はネットを使い掲示板やメールでの問い合わせで情報収集しました。私は電話をかけまくり、主人はパソコンの前に張りつきました。「下手な核出術は再発の可能性が高いこと、腺筋症なら概ね全摘になること、関東の方でレーザーを使った保存手術の話は聞いた事があること」など情報を仕入れました。

情報収集の怒涛のような1週間が過ぎ、ついに決断しました。「広尾」に初診の予約を入れたのです。MRI検査を受ける前でした。実は、今年の初め頃から家庭の中が段々暗い雰囲気になってきたので、主人が私の好きなTDLツアーの計画を立ててくれていたのです。様々なアトラクションを見て回る計画を立てている間は楽しいものの、本当に貧血で辛いこの身体で行けるのかしらという不安がありました。予定は新緑の眩しい5月にしていました。そんな時に「広尾」を知り、羽田空港から近いということもあり、寄ってみることにしたのです。もし、始めからこのTDLツアー計画がなければ、わざわざ四国から横浜まで行くということに躊躇したのではないかと思います。

## MRIの結果

A女医はMRIを見ながら「いまは、子宮は2倍の大きさです。腺筋症に筋腫もあるようです。」と診断しました。「筋腫は1つですか？」と尋ねても何も答えてくれません。返答に困っているようです。「いままでのピル剤やリュープリンの効果がないので手術した方がよいでしょう。子供を希望されるので子宮はとれません。当病院では子宮保存手術はできないので他の大きな病院に行ってください。」との手術宣告でした。いままでずいぶん期待を持たせるようにホルモン治療をしておきながら、最後には手術宣告のどんでん返しです。多くの方

が、普通ならここで奈落の底に突き落とされるようなショックを受けるのですが、既にこの事態を予測して手は打ってあるので驚きませんでした。「行ってみたい病院があります」と紹介状をお願いしました。

## 「広尾」での初診

5月10日に「広尾」で初診を受けました。吊りバンドをした斎藤先生は芸術家のような様子でした。不覚にも、直前にトイレに行ったのでエコーは役立ちませんでした。内診もありません。MRIを見ながら、「粘膜下筋腫だよ」との診断。「えーっ？筋腫?!」いままで腺筋症だとばかり思っていたので大変驚きました。MRI画像には子宮筋層内に大きな筋腫がありビックリしました。筋腫の部分を詳しく教えていただき、赤鉛筆の図解入りで丁寧に説明していただきました。「だいじょうぶ残せるよ。でも今だったら1年くらい待たないとオペできないよ。あなたはまだ良い方だよ。妊娠している女性も待っているのだから。」確かに「広尾」は多くの苦しんでいる女性の駆け込み寺になっていて1年待ちも予想していました。しかし本当に1年とは・・・!

主人が「わかりました。それでもここでオペをお願いいたします。しかし、妻は今、リュープリンで出血を押えていますもう4ヶ月続けています。半年しか続けられないので、注射を止めればまた出血するでしょう。なんとか出血を押え、貧血にならないように注意しながらオペを待ちます。」と診察を終えました。

事務手続きの話があるようなので2階で待つようにいわれました。その間、主人は「やはり1年待ちでもここでオペの予約をして行こう。そのうちキャンセルが出て早まることもあるだろう。他の病院では全摘出ししかないので、これで良かったのだと思う。」と伝えてくれました。ずいぶん待たされましたが、約15~20分してやっと説明がありました。「今、先生から急いでくださいとの話でしたので6月中旬頃にオペを予定しています。スケジュールの調整をして決まり次第また連絡します。」とのこと。思っても見なかった急展開!(後日伺った話では、私の場合あまりにも貧血がひどく、1年先に手術できる体かどうか危うい状態だったのです。それを考慮して下さった斎藤先生の措置でした。)

帰宅(私は大阪に帰省、主人は四国に)すると、さっそく実家に広尾から連絡があったらしく6月28日にオペの予定とのこと。しかし、カレンダーでは6月28日は木曜日です。後日確認するとなんと5月28日の聞き間違いでした。1年待ちのつもりが、初診からわずか3週間足らずで手術です。術前検査もあることなので大急ぎで帰郷し、市立U病院にて術前検査を受けました。その時もA女医は、「広尾」のことは何も聞かず、ただ検査結果を揃えるだけでした。

ちなみに、手術1週間前に風邪をひき、こじらせたくなかったので自宅近くの個人内科病院(以前から事情を説明し、ここでも貧血治療をしていた)にかかりました。E医師は私の腺筋症のことを憶えていて色々尋ねてくれました。腺筋症ではなく筋腫であったこと、今度手術することを話すと、「筋腫なら地元ではダメなの?」と。さらに「広尾」のことをあれこれと尋ねてきました。横浜までわざわざ手術しに行くのですから、専門外であっても聞きたくなるのが普通だと思うのですが、それに引き換えA女医は・・・。

## 背中を押されるように・・・手術へ

何か大きな力に導かれあつという間に手術の日が来ました。2才10ヶ月の子供を連れての手術だったので、先生の配慮で手術の順番は1番でした。手術中は腰椎麻酔(局所麻酔)で痛みはありませんが、何か押されているような感覚がありました。

手術後も翌朝歩くまでは傷口の痛みと倦怠感(けだるさ)があり辛かったです。「子宮筋層内の筋腫は全部取れました。粘膜下筋腫140gと筋腫の核30gを摘出しました。粘膜下筋腫が子宮内腔に出て来る特殊な症例でした。でも、きれいになりましたよ。」と言い切った斎藤先生の言葉は自信に満ちていました。元看護婦として、子宮の手術は大量出血することを知っていましたが、輸血もありませんでした。「それにしても一人子供がいるんだよね。その子が生まれる前(この筋腫の大きさから言って約10年前)から核はあったはずなのによく生まれたね。奇跡に近いよ。あなたの担当医師は始めから腺筋症とっていらしいが、MRIを見てもそう言ったの?見る眼がないねえ~。」とのことでした。

実は、斎藤先生には言っていなかったのですが、1人目を妊娠中にエコーで筋腫らしきものが見つかったのです。でも、その後の定期検診でエコーに写らなくなったので放置し、出産したのです。今にして思えば、やはりその時には筋腫はあったのだらうと思います。

## 「広尾」の三種の神器

手術を受ける前は自費診療なのでやはり「費用が高いなあ」と思っていました。しかし入院中に斎藤先生から様々な話を聞き、「やはりこの先生は賢い人だ。この手術には、その金額の価値はある」と感じました。「広尾」の最大の特徴は次の3点にあるように思います。

### 1) 手術前の的確な診断

腺筋症と筋腫はMRIでも正確な診断が難しいようです。ましてや内膜症では、MRIでも写らない部分があることを考えれば、手術前の的確な診断がその後の治療の成否を決めてしまうと言えます。内診もなく正確な診断が下せることが不思議でなりません。

### 2) レーザーメスを駆使した高度な手術

様々な種類のレーザーメスと特注の器具を使って他の病院ではできない手術を次々と行なっています。また、この器具を十分に使いこなす斎藤先生の技術こそが、不可能を可能に変えていると思います。

### 3) 手術後、摘出しなかった部分への安心

「広尾」を初めて知ったときは、「広尾」の最大の特徴はレーザーメスを使って他の病院ではできない手術をしていることだ思っていました。確かにレーザーメスも素晴らしいのですが最大の特徴は、やはり残された子宮と卵巣なのです。つまり摘出されないで残された子宮や卵巣には「大丈夫」という眼に見えない斎藤先生の太鼓判が押しあてられているのです。2流3流の医師の手術を受けて、早ければ術後の生理から痛みが走り、相変わらずホルモン治療を続け、再発・再燃に悲しみ、何のために手術したのかと苦しむ方々が大勢いるということを知れば、残された子宮や卵巣に「病気が再発しない」ということが最大の恩恵だと思うのです。

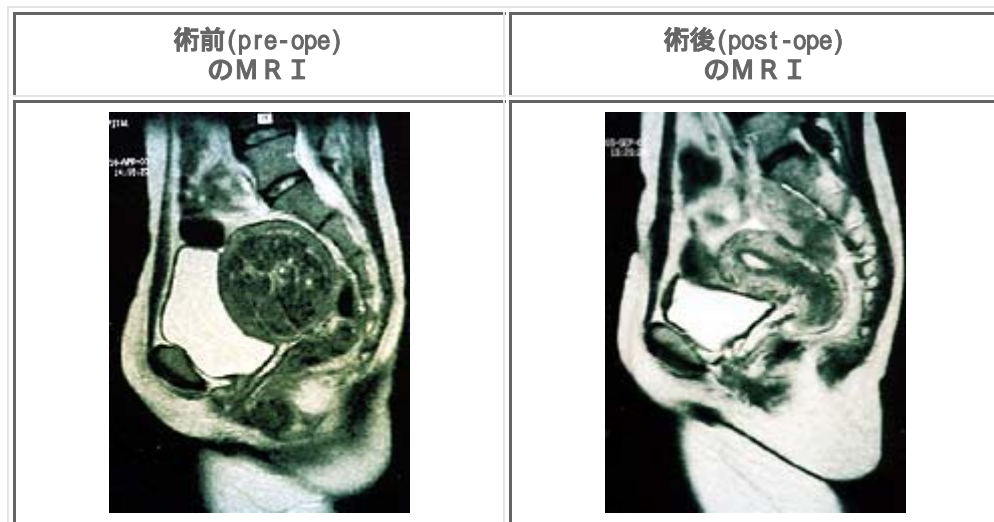
子宮筋腫の患者、看護婦（といっても小児医療が専門なのですが）としての経験から、何かのお手伝いができればよいと思っています。何か尋ねたいことがあれば[メール](#)にてお問い合わせ下さい。

## 最後に

「筋腫は子宮全摘出、内膜症は卵巣と子宮の全摘出しが完全治癒の方法はない」というのが一般的な学説のようです。確かに筋腫や内膜症の発生原因がまだ解明されていない以上、再発するかどうかは閉経までの観察を必要とします。しかし、それでも一般の医師ではできない質の高い子宮保存手術によって多くの女性が救われているのです。一般の医師よりはるかに再発率は低いと思います。斎藤先生の子宮保存手術は世界が目すべき偉業なのです。

最後になりましたが、斎藤先生には大変お世話になりました。看護婦の方々にも温かい看護をしていただきました。本当にありがとうございます。また、「広尾」を見つけてくれた主人にも感謝いたします。

病理検査後、斎藤先生からA女医に手術の詳細が報告されました。A女医は「筋腫だったのねえ。きれいに手術できたみたいですね。やはりプロは違うわねえ～。プロ中のプロだわ。」と誉めていました。「妊娠したときはまかせてね！」とのこと。う～～ん……。考えるなあ！





	術前 (pre ope)	術後 (post ope)
赤血球 (RBC)	442	456
血色素 (Hb) (g/dl)	12.2	13.8
ヘマトクリット (Ht)	38.0	42
CA-125	8.9	
<b>備考</b>	術前 Hb 6 ホルモン治療を続けていた。  子宮内膜腔内に突出腫大化した粘膜下筋腫。	

「何も無かった、かのように治したかった。」

### 筋腫？それにしては自覚症状が...

おなかにシコリがあると感じたのは2年前でした。筋腫かな？と思いましたが生理痛や月経過多という自覚症状が全く無く、当時通っていたヨガ教室の、おばさま達に相談しても、「子宮筋腫があるんだったら、生理痛がひどくて、出血が多くなるはずよ。そんな痛みもなく、きちんきちんと来るなら筋腫なんかあるわけないわよ～。単なる中年太りの始まりじゃないの？」と言われる始末・・・

それでも、仕事が忙しくて疲れたりするとお腹は張るような感じがするし、不安はあったのですが、もし筋腫があったとしても自覚症状がなければ、放っておいても大丈夫。と本にも書いてあったので、そのままの状態で月日を過ごしてしまいました。（以前、おなかの調子が悪い時に内科の診察を受けて、内視鏡で腸内を検査しました。その際には「腸に婦人科がちょっと出っ張っている」と言われましたが、今思えば、それは筋腫だったのだろう、と思えます。）

そのうちどんどんお腹のでっぱりが左側に偏って大きくなり、お風呂に入った時など、水圧でそれがはっきり分かるようになりました。「これは中年太りなんかじゃない！」と思い、前年（1999年）6月、一度行ったことがあるレディースクリニックで診察を受けました。エコーで筋腫らしき影を発見し、「10センチほどの大きさです。ここでは手術できないので、手術できる病院を紹介します。」と言われました。（でも、ここで前にかかった時も同様の検査を受けたのですが、その時、なぜ見つけてくれなかったのでしょうか？）

### 何も無かったかのように治したい

私はフリーで仕事をしています。以前、あるお医者さんの本の制作に携わった時に奥様が筋腫で苦労した方だったことを思い出し、その方に相談にのっていただいたところ、なんと甥御さんが産婦人科医で近所の日赤にいらっしやることがわかりました。

実際に診察していただく前に、電話で色々相談したところ、その先生は東大の大学院に在学中で、週に一度だけ日赤にいらしていると言うこと。それ程の大きさだったら、やはり手術した方がよいだろう、しかし、その先生は執刀できないので、実際の手術は上司にお願いすることになる。でも、日赤の先生はみんな仕事仲間で仲がいいから心配しなくても大丈夫。実際、診察したとき、詳しいお話をしたいと思うので、ゆっくりお話ができるように病院が混まない日に来院するように。とまで言ってくださいました。

実際、エコーの検査の結果、10cmのものがひとつあるのではなく、7cm位のもので2個とその間に挟まれて4cm位のものであることがわかりました。ただ、私の場合、子宮の外側できるタイプの筋腫なので、自覚症状は出にくいということもわかりました。よく本にはある程度の大きさ以上の筋腫は全摘してしまおうと、書いてあったことを述べたところ「そんな、子宮を取ってしまうなんてとんでも無い！今はよっぽどのことがないかぎり全摘なんてしませんよ。でも、筋腫が大きくなると周りの臓器に負担をかけるので4cm以上のものがある方には手術を勧めるようにしています。」とおっしゃいました。

### 「完全な」手術法を探して

でも、いろいろ調べていくうちに核手術は再発の心配もあり、輸血も必要で、全摘出よりリスクが大きいということがわかりました。

よく本には全摘しても卵巣が残れば大丈夫、とあるが、必ずしもそうでもない。ということもわかり、この先生が核出の方向で診てくださっても、執刀なさる先生の判断で全摘になる可能性もあります。それに私の仕事は普通の会社員と違い、かなりハードです。それだけの体力を回復するのに、2週間の入院、2週間の自宅療養でもとに戻れるのだろうか？万が一、全摘した後、後遺症が出て働けなくなったりしたらどうしよう・・・今、これといった自覚症状がないのに、手術をすることによって、具合が悪くなったらいやだ！今以上の健康な体にならなければ、手術を受ける意味はない！なんとか何も無かったような顔をして筋腫を葬り去ってしまう方法はないか？と思い探したところ、広尾クリニックのHPを見つけました。



その内容を見て、これはすごく理想的な治療法だ！と思い、保険が利かないということも気になりましたが、まず、自分の目でどんな病院か見て、先生に診てもらい、費用も自分が払える金額じゃなかったら諦めよう。と思いつつ、すぐ電話で予約を入れました。（実際、もうこの時、本心ではもう齋藤先生に手術してもらおう。と決心していたような気がします・・・）

「こんなに大きくて何も感じないなんて、あなた鈍感な人ですね」「今、何もなくても今に大出血しますよ」という、齋藤先生はHPに書かれているようなやさしい感じの先生というより、こわい感じがしましたが、「大丈夫、もとに戻せます。」と自信を持って答えられる。とにかくこの先生に任せさえすれば大丈夫だ！と思う気持ちの方が強かったです。

費用の方も事務長さんから、「国の健康保険は使えませんが、民間の保険は使えます。」「先生は慣れていますから、今までみなさん全額降りてますよ」という言葉に（幸い、私は女性特約のついた保険に入っていたので）全費用まかなえるものと思いこみ、喜びいさんで予約してしまいました。

後になって、自分が入ってる保険じゃ全然足りないとわかったのですが、健康でさえいられれば、お金は働けばなんとかなる！と思いました。

そのことを日赤の先生の告げると心よく承諾してくださり、それどころか、手術までの期間が半年もあるということをご心配してくださって、それまでの間、心配だから何もなくても3ヶ月に一度は検診に来るように（もちろん、何か異常があったらすぐ来るように）と、術前の検診をして、紹介状を広尾クリニックに書いてくださるとまで、言ってくださいました。この先生のおかげで、私は手術まで安心していられたように思います。

手術の日を待ってる間はほかの方達と同じよう、「ああ、今回の生理は無事だった。あと一回、何事も起きないように」と祈るような思いで指折り数えて待っていました。

手術のことは一部の友人に話ただけで、家族にも手術費のことは内緒で、秘密裏にしてきたのですが、一人で入院することを知った友人ご夫婦が、ある日突然、「うちには車もあるし、（奥さんは）昼間、時間がありますので、入院も退院もできるだけ面倒みさせてください。くれぐれも術後、一人で電車に乗って帰るなんて考えないように」と申し出てくださり、そのご厚意に甘えさせていただくことにしました。

## そして入院・手術

かくて待ちに待った手術の当日、前夜飲んだ下剤のせいで、途中の駅で2度（品川と川崎）ばかりトイレ休憩をとり、ようやく広尾クリニックにたどりつきました。

この日、手術を受けるのは3人で私は3番目とのこと。術前の処置をしていただき、ひたすら自分の順番を待ってる間、とても長く感じられました。でも、5時くらいから・・・と言われていたにかかわらず、前の二人が早めに終わったとかで3時くらいに呼んでいただけました。

手術台のベッドに上がって、麻酔を打っていただいても、すごく緊張してるのがわかります。「体に力を入れられない方がいいんですね」と言うと「もう、麻酔が効いてるから、力を入れてるつもりでも入ってないよ」と齋藤先生に笑われてしまいました。いよいよ手術開始です。手術中はずっと意識があって、ちょっとでも痛みを感じると麻酔科の先生に麻酔を追加していただいていたのですが、緊張してるせいか、耳元で鳴ってるはずの音楽もちょっと聞こえませんでした。

手術が終わって部屋に戻ると時計がちょうど5時55分でした。看護婦さんが「ゴー！ゴー！ゴー！ですね。」と言ってくださって、わざわざ実家の親のところに電話をしてくださいました。でも、手術台から降りてから、痛みがけっこう辛かったので「あの～、麻酔ってまだきいてるんですね？けっこう痛いんですけど・・・」と言うと「うちはモルヒネは使いませんので、全く痛みがなくなるということはありません。すこしくらいの痛みは我慢してください。」と言われてしまいました。

おまけにお腹の中の腸が時々、ピクン！ピクン！と動きだすのです。そのたびに傷痕も痛みます。その夜は痛みを耐えながら、まんじりともせず、ラジオをつけっぱなしで、ラジオの音楽に気を紛らわせながら一夜をすごし

ました。(今後、入院なさる方は是非、お気に入りのCDをお持ちすることをお勧めします。テレビは起きあがれないと見れませんが、ラジオやCDはリモコン操作で自由に聞けますから。)

でも、翌日は私が一番に立って歩き始めました。1階の受付のところまで、歩いていくと斎藤先生がいらっしゃって「えらい。えらい。」と誉めてくださいました。しかし、その帰りに貧血を起こしてしまい、あわてて看護婦さんが持ってきてくださった椅子に座り込む始末。術後の検査でなんと私のヘモグロビン値は6.6しかありませんでした。術前でさえ9しかなく、斎藤先生に「血が薄いから途中で輸血するかも知れませんよ。」と言われていたくらいですから、もし、これが通常の手術だったら、自己輸血なんて絶対不可能だったことでしょう。何も自覚症状がないと思っていたけど、貧血があるということは、出血が多かったから・・・ということも指摘されました。

そして、夕方、待ちに待った夕食です。最初はスープ、ジュースなど水分だけです。それもゆっくり流し込むようにしないと、ちょっとでもお腹に入るとお腹がキューンと締め付けるように痛んだり、ゴロゴロいたりします。おかげで、私はその晩のうちにガスより先に便が出ました。

食べる度に腸が移動して痛みが出るのは入院中ずっとで、いつも食事に1時間位かけてゆっくり、しかもトイレに行きながら、という有様でした。この時も個室でトイレが近いのがとても有り難く思いました。「安達さんのお腹の中は、筋腫と筋腫の間を腸がぬうような感じで、かわいそうだったわよ。先生が『よく便秘しないなあ』って関心なさってたくらい。きっと邪魔者がいなくなって腸が喜んでるのよ。お腹が動くのは癒着がおきにくくなるから、いいことなのよ。」と看護婦さんに励まされました。

おかげさまで、退院する時、便秘した時のためにと渡された下剤も服用することがありませんでした。でも、退院するまでこの腸の移動する痛み(?)は続き、お腹に力が入れない分、背中や腰に力が入るのか変なところが凝ってしまい、傷痕が痛いのか、お腹が痛いのか、背中、腰が凝って痛いのかいような痛みがごっちゃになってしまいました。それでも、無事、友人が迎えに来てくれた車によって天気のいい土曜日、ドライブがてらの退院となりました。

ああ、これで、もう安心。と思っていたのですが、私の場合、その後の方が大変だったのです。

## 術後は着物で

友達の車に迎えに来てもらい、無事退院。そうそう、この友人はインターネットの着物関係のサイトで知り合った方です。私に着物で退院できるようにとわざわざ着物を持ってきてくれました。広尾クリニックで着物姿で退院する人は二人目とかで、前の方はわざわざ近くの美容院に行って着つけてもらってきたそうですが、私は自力で着ることができました。着物だと帯が腰を支えてくれるので、腰痛気味だった私はかえって楽でした。

退院してからも、私は何でも一人でやらなければいけません。買い物に出たりするとき、お腹のあたりが人にちょっとぶつからただけで、傷痕が痛みます。でも、着物だと周りの人が着物を汚したら大変と思うらしく、気をつけてくれるので、得。年末、東京ミレナリオを見に出かけたのですが、着物のおかげで、あのすごい人混みの中を歩いても平気で、術後1ヶ月にならないとは思えないくらい元気でした。

## 薬疹の後お肌がすべすべに！

退院するとき、傷痕の消毒の仕方を看護婦さんから教わり、さらに化膿止めなどの何種類かのお薬2週間分と、私は貧血があったので鉄剤59日分をいただきました。普段はめったに薬等飲まないのですが、何かあっては大変だと思いじめに服用してたところ、2週間分のお薬が無くなる頃に、肌にポチポツと赤い湿疹のようなものが出来て、あちこちが痒くなってきました。飲み終わった頃にはそれが首筋や手のひら、足の甲、顔にも全身に広まってしまい、あわてて広尾クリニックに電話したところ、斎藤先生から「薬疹ですから、薬を止めて1週間ぐらいすれば治ります。心配だったら皮膚科に行ってもいいですよ。」とのこと。でも、もう薬はいやだ!と思い、放っていたら、3日くらいでよくなりました。

入浴許可の下りた術後1ヶ月後に、近所にできた温泉に友達と行ってきました。(本当は銭湯、プール等は6ヶ月後だったそうなのですが・・・) そうしたら、いつもの冬なら肌がカサカサに乾燥する頃なのにすべすべになり、術後初の美容院に行った時、鏡に映る私の顔を見た美容師さんから、「お肌すべすべですね。光ってますよ。何かいい化粧品でもお使いですか?」と聞かれたくらいです。

斎藤先生にそのことを話すと「筋腫が無くなって正常な子宮に戻るとホルモンのバランスが整って、肌も自然にきれいになりますよ。逆に子宮を取ってしまうと一気に老け込む。」と説明して下さいました。そして、「女性が女性らしく生きるため、いや、それ以前に人間らしく生きるためにも子宮は取ってはいけません。」ということも。

そして、術後の生理があまりにも量が少なく、もともと生理痛などほとんど無かった私は物足りないくらいで「先生、私、なんかもう、あがっちゃうんじゃないか？って心配なくらい量が少なくなっちゃったんですけど・・・」と打ち明けたところ、「正常な生理は4日間で40ccとか20ccと言われているんだよ。それ以上はすべて不正出血なんだ。そもそも貧血があったってことは、出血量が多すぎたってことなんだよ。だから、正常な生理ならナイト用のナプキンなんていらんはず。よく生理用品のコマーシャルで『多い日も安心』ってやってるけど、それだけ不正出血の人が多くなってることなんだろうねえ。」ということをお話して下さいました。

そう言えば、私はいつも5～6日で終わってはいたのですが、2日目の多い日だけは、タンポンとナプキン併用でも、夜などはもれてしまうくらいでした。タンポンも体によくないから止めた方がいい、とおっしゃってましたが、今はもう不要です。はっきり言って2日目でも軽い日用の小さいので足りるくらいです。

## 傷痕の痛みは広尾にまた入院したい病？

術後は、とにかく誰も看病してくれる人がいないので無理しないよう心がけてきたのですが、あまりにも順調に回復していたので、1年半ばから仕事も開始しました。ところが2月に入ると、かなりハードな状況になってしまいました。そうしたら、時々、傷痕にヒリヒリと痛みが出てきて、3月の末に斎藤先生に診ていただいたのですが、特に異常はないということで、広尾での手術後、2日で病院を飛び出して仕事に復帰した強者の患者さんの話をしてく下さいました。（詳しいお話は機会があったら斎藤先生にお聞き下さいね）

看護婦さんも「家ででのんびり休養できる主婦のような人より、仕事を持つての方の方が治りが早いんですよ。」と話して下さいましたが、不思議なことに私の傷痕の痛みは広尾MCに行ってる間は出ないのですが、帰ったとたんにまた痛みだすのです。これは「また広尾に入院して、のんびり過ごしたい！」という願望から「広尾シック」になってしまったということなのでしょう？

それからもたびたび傷痕は痛み、ひどいときはお腹を抱えてうずくまるくらいに・・・それがなかなか良くならないので、忙しさにかまけ後回しにしていた術後の検査を、思い切って受けてみました。傷痕の痛みのことも斎藤先生にお話して診ていただき、「手術をするときはお腹を切る際、神経もみんな切っているのだから、そう簡単に元通りにはならない。」ということをお聞きした後、不思議なことにあんなに毎日痛んだ傷痕の痛みが治まったのです。

血液検査の結果は徹夜明けの状態で行ったにもかかわらず、ヘモグロビン値が13.5まで回復していました。先日、ようやく母親に手術の記録のアルバムを見せることが出来たのですが、私が良くなったことはもとより、その丁寧な記録を見て「こんな病院があるなんて！」とビックリしていました。

## まわりに婦人病の人が次々と・・・

こんな風に私は自分でインターネットで広尾MCを見つけ、手術を受け、子宮筋腫を克服したのですが、人づてで、私がすごくいい病院を見つけたと聞いた人が次々と現れ、何人もの人にこのHPを紹介しました。その中には他の体験談に書かれている方達と同じように、どこの病院に行っても「全摘」を宣言され、広尾を最後の頼みの綱として、現在、手術を待っている人もおります。

子宮筋腫や卵巣腫瘍、腺筋症などの婦人病に悩んでいる女の人がこんなにいるなんて！私は自分が良くなりさえすればいい、と思っていたのですが、そうは言っていられなくなり、婦人病の先進医療の講演会に行ったりして情報収集につとめました。私を診てくださっていた日赤の先生のように、今はできるだけ子宮温存の方向へと、患者とのインフォームドコンセントを大切に変わって来ていることが分かったのですが、私が調べた限り、どんな治療法も限界があるのです。斎藤先生のような手術を行ってくださるところはありませんでした。

また子宮筋腫に関する新刊本も目を通しているのですが、最近見つけた本に「レーザー手術などでこれは自分にしかできない手術だなどと言って売り込む医師は避けましょう。子宮筋腫の手術は特定の医師にしかできないような種類の手術ではありません。インターネットで集めた情報は慎重に。」と、暗に広尾MCのことを指摘しているような本も見つけました。

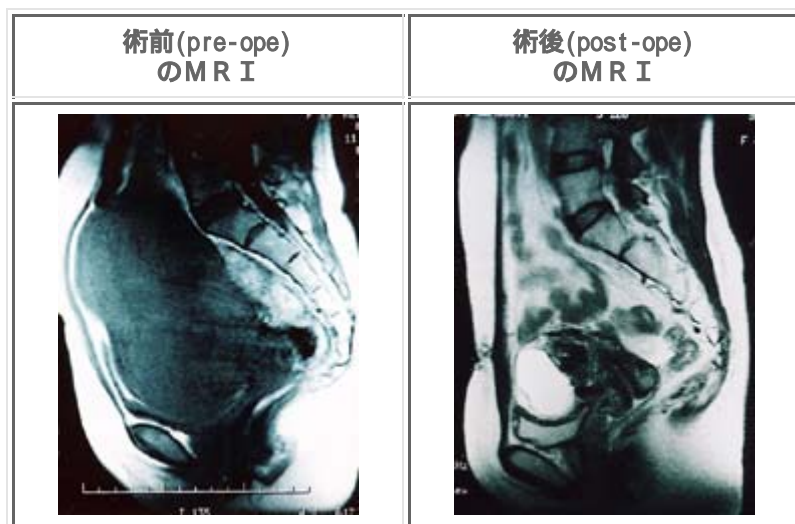
ではなぜ、他の医師は齋藤先生のような手術ができないのでしょうか？先に書いたように、家族に代わって私の入退院を手伝ってくださった友人も、インターネットで知り合った人達です。確かにインターネットを使って悪いことを行っている人がいることは否定しません。しかし、善悪の判断をするためにも、まず行動してみることが大切なのではないのでしょうか？

最後に、正直言って私はひどい自覚症状が無かったため、体調や術前の方が良かったかも、と感じます。でも、あのまま放っておいたらどうなっていたか？いわゆる「普通の手術」を受けていたら、どうだったか？偶然、私の1ヶ月前に子宮筋腫で全摘手術を受けた友人がいます。私の術後1ヶ月は、彼女の2ヶ月後より、ずっと回復していました。

その後も、私はすぐ仕事に復帰できたのに、その人はずっと仕事をセーブしないと体がもたないようです。その人は「もっとよく調べてから手術を受ければよかった・・・でも私にはそんな手術費は払えなかった・・・。」と嘆きます。齋藤先生の技術が「特定の医師の特別な手術」でなくなる日が来ることを、願ってやみません。

体験談をいくら読んでも、不安に思うこと・もっと知りたいことは山ほどあるかと思えます。医学的なことや治療については、医師ではないのでお答えできませんが、自分が体験したことだったらお伝えできます。

メールにて こちらまで [tom\\_mo@mac.com](mailto:tom_mo@mac.com) お問い合わせください。



	術前 (pre ope)	術後 (post ope)
赤血球 (RBC)	379	427
血色素 (Hb) (g/dl)	9.1	13.5
ヘマトクリット (Ht)	30.0	41.8
CA-125	14.1	-

---

Copyright (C) 2001  
HIROO MEDICAL CLINIC

「いくつになっても、健康なまま子宮を残したい。」

## 年齢的にも、迂闊に口にできない話題

私がイニシャルで体験談を語るのには理由があります。婦人科の病気を患い、人知れずいつのまにか子宮を全摘出された方は、私たちの身の回りには意外と多くいらっしゃいます。ましてや子供がいて40歳過ぎていたら、医師は簡単に摘出を言い渡しますし、患者さんもそれしか選択の余地がないと思込まれ、手術してしまうケースも少なくありません。そして病気のことや手術されたことをおおっぴらに話される方は、ほとんどいらっしゃらないと思います。ましてや子宮を全摘出されてしまった事で、少なからず心に傷を負われた方は尚更でしょう。

今現在お付き合いのある方々のなかにも、ひょっとしたら子宮を失ってしまった方がいるかもしれません。(そういう方が2~3人に1人いてもおかしくない年代なのです。)そんな方に対して、「子宮を残せて治療できる病院があるのよ。」と話すのは、あまりにも無神経な・・・、かと言って、悩みながらこのサイトを訪れた方にはお伝えしたいことも沢山ある・・・、という訳で、イニシャルで登場させていただきました。「子宮」に関する話は、それだけ女性にとってデリケートな問題なのです。

## 子宮筋腫と診断されるまで

私は26歳と30歳で子供を授かり、妊娠検査や定期検診では特に婦人科の疾患を指摘されたことはありませんでした。2人とも海外でのお産でしたが、妊娠も順調で出産後も特に異常は無く、良いドクターに恵まれ、良い出産ができた満足しておりました。その後は2年に1度、婦人科検診を受けていましたが、やはり婦人科の異常については何も言われたことは無く、自分はいたって健康なのだと思っていました。

4年前の秋。検診で「子宮が少し大きくなっているようだから、時期を見て婦人科に行くように。」と言われ、大学病院を紹介されました。この時は全然何の自覚症状もなかった(と思っていた)ので「とりたてて慌てることもないわ・・・。」とのん気に構え、そのうちおっくうになり、結局病院には行きませんでした。もともと便秘がちだったので、お腹の左側が硬いのは便秘のせい、お腹がポッコリ出てきて洋服が2サイズもアップしたのは中年太りのせい・・・と、まったく婦人科の疾患とは結びつけずに日々を過ごしていました。

それが一昨年の婦人科検診では「子宮筋腫が大きくなっているの、すぐに婦人科に行ってください!」と言われました。とにかく、すぐに近くの大学病院で診察を受けました。初めての診察後、「子宮筋腫がだいぶ大きいので、卵巣を残して子宮は全摘する事になるでしょう。」とさりと言われ、もう、大ショックです。子供を二人も育てて産んでくれた、こんなに良く働いてくれている子宮を取り除いてしまうなんて、絶対にイヤ!絶対にできない・・・!とても悲しい気持ちになりました。

12月、2回目の診察で初診の時に撮ったエコーを見せられ、私の筋腫は赤ちゃんの頭ぐらいの大きさ(直径約10cm)ほどあると分かり、次回までに手術日を決めて来るようにと言われました。大出血が起きてそのまま摘出手術になることがあるので、手術は早い越した事はないと。生理も順調で貧血もなかった私には、なにもかもがピンときませんでした。でも、摘出に向けてジリジリとコマが進んでいきます。どうしよう、このままでは子宮を失う事になる・・・。

## 産婦人科って!?

子宮が無くなるかも!という思いだけで十分不幸な気分を味わっているのに、病院では妊婦さんと同じ待合室です。私も自分が子宮筋腫になるまで分かりませんでした。病院での待ち時間は、つらい時間でした。妊婦さんはこれからお子さんを授かる幸せに満ちている・・・にもかかわらず、子宮を失うかもしれないという不幸感を心に抱えた婦人科疾患の患者さんが同じ待合室というのは、なんともやりきれない思いでした。

また、診察室での患者のプライバシーもなく、壁1枚、カーテン1枚隔てた向こう側で内診やその他の診察や処置が行われているのが他の人にわかってしまう。少なくとも私が海外でかかった婦人科では、そのような事はあ

りませんでした。メンタル面のケアとプライバシー保護については、医師の対応も含めて、日本は遅れているのでは・・・、自分が患者になってみてつくづく感じました。

## 私の決断

この頃から、子宮を残して筋腫を治療する方法があるのではないかと、まずは本を読みあさり、調べ始めました。ところが、子宮を取りたくない一心で調べ始めたというのに、どんな本を読んでも書いてある事は似たり寄ったり。『核摘出手術はリスクである』『全摘出してしまえば再発も無く万々歳』みたいな本ばかりです。

書籍はダメかも・・・とインターネットでも調べ始め、じきに「広尾メディカルクリニック」を見つけました。体験談をはじめ、病気についての説明、手術前と手術後のMRI画像や摘出物の写真、データ・・・ここにはウソも隠しもありませんでした。これほどまでに、すべてを開示している病院は他にはないでしょう。私の心に「ここなら元気になれる！」という確信めいた気持ちが生まれ、5月に予約を入れていた大学病院でのMRIの検査には行きませんでした。

## もしかして・・・

「広尾」で手術を終えて、体が回復した今だからこそ思いますが、高校時代から生理痛の薬は毎回服用していましたし、出血量が多く昼間からナイト用のようなナプキンを使っていました。もしかしたら、この頃から筋腫の芽はあったのかもしれませんが。ですが、痛みも多めの出血も2～3日のピークを過ぎると無くなり、生理自体も5～6日でピタッと終わっていたので、これが普通だと思っていました。

出産を期に生理が軽くなったように思われ、高校時代の生理痛はきっと子宮などが未熟だったせいだと考え、ますます自分の生理は普通だと思っていました。どこも悪く感じていない、「普通」の状態なのに、なぜ、子宮を摘出しなくてはならないのか？子宮の摘出に抵抗があったのは、そんな思いがあったせいもありました。

## 広尾にて

「広尾」の初診は8月でした。初めて訪れたクリニックでは、思わず外国の病院を思い出しました。暖かいイメージ、プライベートな空間。診察室では、内診もなく、自信に満ちあふれた先生の言葉。あくまでも手術を受けるか、受けないかを決めるのは患者にゆだねる・・・。こういう個人クリニックは外国には多いのですが、日本でこのようなクリニックに巡り会えるとは、感激でした。

同行してくれた母は、「いままで手術を失敗したことは無いのか？」が、気になっていたようでした。すごく失礼な質問だったかもしれませんが。後日、先生がレーザー手術を始めたばかりの頃、さすがに手の施し様が無く摘出せざるを得なかった事が数例ある・・・ということを目にしました。それも先生の著書かサイトに書いてあるそうです。そこまでオープンにされているなら、診察時に尋ねても別に失礼ではなかったのかも知れません。

子供が高校受験の一番大切な時期だったので、受験が終わる2月の中旬頃の手術が希望でした。2月なら手術日が選べるとの事だったので、自分の希望日に手術の予約をしました。幸いにも辛い自覚症状が殆ど無かったので、あっという間に手術の日を迎えました。「広尾」で手術を受けることができた人は、私も含め、本当に幸せだと思います・・・。

という思いとは裏腹に、自覚症状がほとんどなかったせいか、私は人より痛みに弱いのか、術後はとにかく辛かった。3日目くらいまでは黄色い点滴が始まると気分が悪くなり吐き気がしました。傷の痛みで寝返りひとつ満足に打てず、うまく力めません。食欲も湧かず、本当にこんな事で土曜日に退院できるのかすごく不安でした。トイレに行くのも必死の思いで、気持ちはあせるのに身体がついて行けない・・・そんな辛いときに夫がお見舞いに来てくれると、甘えたい気持ちや色々な気持ちがごちゃ混ぜになって、つい「ホロリ」としてしまいました。

4日目に入ると昨日までの辛さが薄れてきて、シャワーを浴びることができたこともあり、気分も一新。だんだんと「元気」が自分の中で濃くなっていくのが分かりました。退院の時には、最初の何日かがウソのように体調も良くなり、幸せ100%になっていました。

## わかったこと

「広尾」で手術する前に、ひどく足首を捻挫して靭帯を伸ばしてしまった事がありました。入院中の先生のお話で、筋腫が育って大きくなると身体にも精神的にも悪影響を及ぼすと伺いました。私の場合1kg近い筋腫があったのですから、身体のバランスも悪くなっていたのですね。ちょっとつまずいただけなのに、なぜあんなにひどいケガになってしまったのか・・・その理由がわかりました。それにメンタル面でも思考が鈍くなったり、消極的になったりすることがあるそうです。また、自覚症状が無い人ほど筋腫を大きく育ててしまうので、痛みや出血過多が無いのも問題だ・・・とも。なんだかどれもこれも自分に当てはまります。やはり婦人科系の健康は、女性の健康そのものなのだと痛感しました。

## 退院その後

ところが、退院後はあまり元気ではない状態が続きました。体が疲れやすく、「私は体験談みたいに元気になれない・・・？」と不安でした。お腹の傷の手入れは自分でやらないといけないので、傷の治り具合も気になります。また、術後1ヶ月半で最初の生理が来たのですが、生理が終わってもチビチビと不正出血していたのも心配でした。（不正出血については、2回目の生理の後はほとんど無くなりました。）

あれだけの手術をしたのだから傷が治るためには多少時間がかかって当然と思いつつ、いっしょに入院していた人とお互いの様子を報告しあって不安を解消していました。彼女には同じ痛みを経験した同志として精神的にずいぶん助けられました。体調がこんな調子だったので、心の底から元気ではなく、術後2ヶ月半ほどは「なんだか疲れやすい・・・。」という感じで、日々を過ごしていましたが、術後3ヶ月目にふと気付くと、見違えるように元気な自分がいました。

ほんの半月前と今のこの違いは一体何なのだろう？と自分でも不思議に思う程でした。運動でも何でもOK！気持ちから心底元気になったのだと感ずることが出来ます。病気が判明し、治癒したから分かるのですが、手術前は頻尿や便秘、疲れやすいなど明らかに今より元気では無かったように思います。筋腫を摘出したら、もう見違えるほど（と自分で感じるほど）元気になりました。術後の検診は3ヶ月以上経ってからというのが、理にかなっているのだと感心しました。回復にはほんとうに個人差があるのだと思います。

## 伝えたい！！

自分の身体のこととは自分で考え、自分で判断し、守らなくてはなりません。他人から言われてどうかするのではなく、自分が動かねば誰も守ってくれないのです。「例え何歳になろうと健康なまま子宮を残したい！」私はこの一心で「広尾」を見つけ、無事手術を受け健康を取り戻すことができました。

国保や社会保険を使わず、自費診療だということは確かにネックではありますが、健康はお金にはかえられない・・・本当にこれだけは声を大にして言いたい！持って生まれたものは、安易に摘出などしない方が良いのです。

「広尾」での治療は、手術から退院までの1週間のローテーションや個室、シャワーのタイミングなど、何もかもが患者のために計算し尽くされているように思います。もちろんそれを支えている看護婦さんの献身的な努力もあります。個室は贅沢・・・な気もしましたが、一生のうちに1回くらいはこんな1週間があっても良い、と思います。

一人の先生が責任を持って全てを見た後、患者に情報を開示してくれる（入院記録のファイル）、それでこそ得られる安心感や信頼感が、ここにはあるのだと思います。情報開示用の入院記録ファイルも、単にデータだけでなく、一人一人の手術記録から術後の所見まで、先生や看護婦さんが書き込んで作成されています。

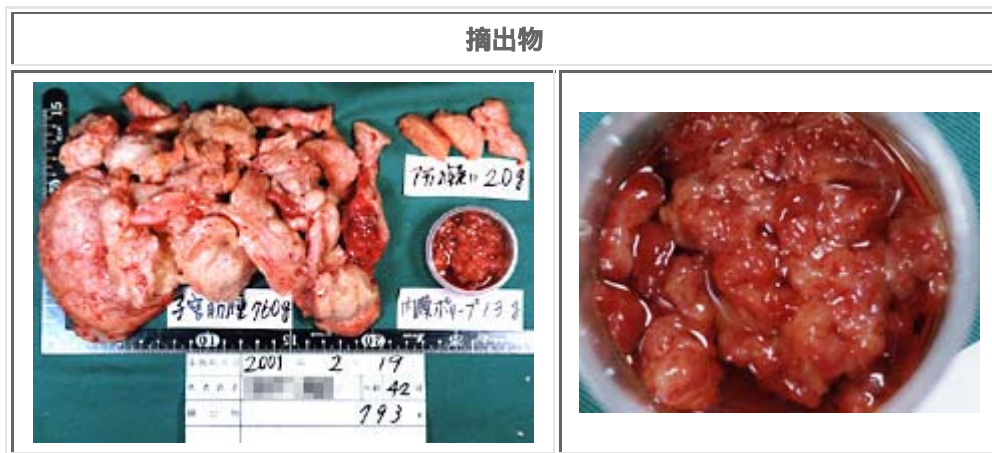
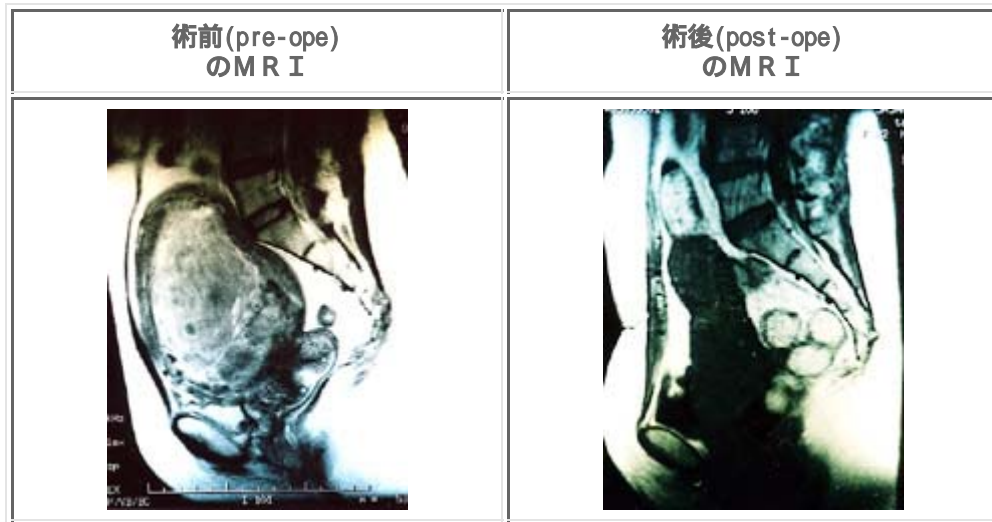
このファイルは、自分の病気を家族に分かってもらうためにも重要なものでした。夫はともかく、ファイルを見た子供はビックリしていました。子供には理解できなくとも、明らかに以前とは態度が違っているので、子供なりに感じることはあったのだろうと思います。

金曜日のお茶会で、「先生は、後継者をお育てにはならないのですか？」と尋ねた方がいらっしゃいました。確かに、後世に引き継げる物なら本当に誰かに引き継いで欲しいとは思いますが、しかし、今のように医療が発達していない時代からの経験の上に培われた齋藤先生の技術は、現在の技術だけを表面だけ伝授しても、おそらく誰も今の齋藤先生と同じレベルの治療はできないのだろうという思いもあります。



斎藤先生が「この治療をしよう」と決めて、決めたご本人が行っている治療だからこそ、他の人が真似しようとしてもできないのかもしれませんが、そこから生まれる、より良い治療のための型にはまらないユニークで柔軟な発想、それを支える「一生現役」という熱い気持ち。斎藤先生のような方は、身近にはなかなかいません。私は、「広尾」の手術で子宮を助けていただいたばかりではなく、“Happy”や“Luck”が自分にも分け与えられたと感じました。そして、「医は仁術」の真髄を行っているエネルギッシュな斎藤先生から、“生きる活力”を貰ったと感じます。先生からの影響は心の深いところに根ざして、私の中で確実に育っているような気がします。

斎藤先生はじめ麻酔の先生、看護婦さんやスタッフの皆さん、そしてたくさんの愛をくれた母や夫、子供達にとっても感謝しております。



	術前(pre ope)	術後(post ope)
赤血球(RBC)	463	496
血色素(Hb)(g/dl)	14.0	14.5
ヘマトクリット(Ht)	40.9	45.3
CA-125	59	16

「追い詰められていた私、遺伝を気に病んでいた母。二人とも救われました。」 横井友香里（34才）

## 心音異常から筋腫を発見

私は広尾MCでの手術の前、24歳頃に子宮筋腫摘出の手術を経験しています。その時は初めから婦人科系に異常を感じて婦人科へ罹ったのではなく、職場の健康診断で心音異常（右心室肥大）と貧血があったため、内科で精密検査をするよう指示があったからの事でした。内科で、血液検査を含め色々な検査を受け、ヘモグロビン値が6.4と低すぎることを指摘され、念のため婦人科も受診するように勧められました。

岐阜大付属病院の婦人科で診察していただきましたが、そこではすぐ入院・手術だという話になってしまい、具体的に何がどうなっていて、何のために何をするという説明が充分ではなかったように思います。（ただし、生理痛や出血は激しかったので、やはり治療は必要でした。）

そんな状況での入院・手術に母がストップをかけ、子宮を残す方針で治療をしている名古屋大付属病院で診察を受けてみました。私の年齢や未婚であることを考慮してか「子宮を残す方向で治療・手術をしましょう。」と言って下さって、とりあえずは一安心でした。

子宮筋腫がある人には「筋腫心」という心臓疾患が現れることがあります。筋腫のせいで出血過多や不正出血で貧血になり、その薄い血液で酸素を体中に運搬しなくてはならないので、自ずと心臓に負担がかかり、心臓が肥大していきます。

## 1回目の手術～再発

名古屋大付属病院では、ホルモン療法で筋腫を小さくして摘出する方向で治療を進め、1クールのホルモン療法後、手術に臨みました。（ホルモン療法では大して副作用もなく、このまま生理が無ければいいのに・・・と考えるほど。）術後に見せてもらった摘出物は大豆くらいの大きさで、術前に聞いていた説明より多く、10コくらいありました。

術前は「直径5cm程度の筋腫が2コある」と聞いていたのですが、いざ回復してみると2コどころではなかったようです。子宮の内膜にブツブツとたくさん筋腫ができていて、手術時間も予定より随分長引いてしまったようでした。更に時間をかけて全てを取り除いていたら、患者である私の体力が持たないと判断され、見える範囲で取れるだけ取ってお腹を閉じたとの事でした。

術後の説明で、

- 取りきれなかった筋腫が、5年後には確実に同じ大きさまでに再発する。
- 再発したら、今回と同じ処置は2度とできない。子宮全摘出になる。

と宣告されていました。

5年の間に結婚できて子供を授かれれば良いのですが、それがかなうかどうかなんて先のことは分かりません。その後、定期的に検診とホルモン療法のため通院して、2年くらいは調子良かったのですが、26歳を過ぎた頃に「2cmくらいのがある。」と言われ、ギクリとしました。それでも当時は、まだ生理の状態は悪くありませんでしたが、28歳頃には生理が重くなっていて、5年経った時には、筋腫は手術前より大きくなっていました。

筋腫の成長に伴い、膀胱などが圧迫されているのでしょう。頻尿はもちろんですが、クシャミをすると必ず尿漏れをしていました。痛みもひどく、一応薬局では売られていますが、一般には馴染みの薄い、強い鎮痛剤を買い求め、出血もオシッコのようにジャーっと出るので普通のナプキンではいくら高性能でも間に合いません。いつも老人用の尿パットを愛用していました。実はこれがなかなか良いのです。新品を職場のロッカーに常備していないと、安心できない状態でした。

## 一人で悩み苦しんだ再発

母は、私を含め4人の子供を授かった後、筋腫で子宮を全摘しておりました。姉2人は何とも無いのに、私だけこのように婦人科の疾患があるのを自分の体質に似たからだに感じていました。なので、母には絶対に再発したことは言えません。それだけでなくナーバスになっている母を、これ以上刺激するのはあまりにも可哀相でした。2回目は摘出しかないと分かっていたので、この状況でも子宮を残して治療してくれる病院はないかと探し、友人に聞いた名古屋通信病院に行ってみました。

そこでは女医さんが担当で、「どうしても子宮を取りたくない。」という私の訴えに耳を傾けてくれました。この時点で、恐らく先生の心中では『この人の子宮は、保存治療する方法が無い・・・』と判断がついていたと思われますが、「納得いくまで治療しましょう。」と言って下さり、子宮を残したいならホルモン療法しかない、と勧められ行うことにしました。

当時、筋腫は10cmほどに成長しており、仰向けになってお腹を触るとハッキリと分かるほどの大きさでした。1クールホルモン療法後、筋腫は小さくなっていましたが、休止中に元のサイズより大きくなってしまいました。それでも子宮は絶対に取りたくなかったため、ホルモン療法を続けましたが、2クール終了した時点で、いつもの女医さんではない男性の医師から、「もういいでしょう？子宮取ったら？」と軽く言われてしまい、それ以上その病院へ通っていると、いつかは取られてしまう・・・と急に恐ろしくなり、通院するのを止めてしまいました。

その後、広尾MCで診察を受けるまでの2年間、どこの病院にかかっても摘出するしかないと言われるのが分かっていたので、それが恐ろしくて結局ほったらかしにすることになってしまいました。そんな苦しさを、母を始め身近な誰にも打ち明けることができず、精神的にも肉体的にも、ただ辛く苦しい時間を過ごし、私の心にはどんどん「不安」や「絶望感」が増殖し、追いつめられていきました。

## 子供好きな彼が探してくれた「広尾メディカルクリニック」

29歳頃に出会った彼（現在の夫）がいなければ、「広尾メディカルクリニック」で子宮を残す手術を受けられたかどうか・・・です。二人とも子供好きで、いずれ結婚して子供を・・・と夢を描いていました。

私に筋腫があると知った彼は、「これは筋腫に良い・悪い」と生活や食事について気を使ってくれ、手術で何とかできる方法があるに違いないと、インターネットで調べてくれて、「広尾メディカルクリニック」のサイトを隅から隅まで目を通し、ここなら何とかできるのではないか、と広尾MCでの手術を勧めてくれました。当の本人は費用のことがネックになり、グズグズしていましたが・・・。

彼とは99年に結婚しましたが、私の筋腫は急速に成長速度を増したようで、妊娠6ヶ月くらいのお腹になっていました。当然前かがみの姿勢は苦しくなるし、背中の方まで鈍く痛む感じがしました。それまで強い痛み止めを服用し、鉄剤をガバガバ飲んで生理痛や貧血をごまかしてきましたが、さすがに限界を感じ、2000年の夏、再び通信病院に行きました。

検査の結果は薄々わかっただけでしたが、改めてMRIの画像を見て女医さんから「筋腫がすさまじい大きさになっている、私には手の施しようが無い・・・。」と言われてしまいました。子宮を摘出するしかないと分かった時の私たち夫婦の落ち込みようと言ったら、言葉になりません。私の筋腫は子宮壁の中にたくさんの筋腫がプツプツとギッシリできるタイプのもので、画像で見ると様々な大きさの筋腫が子供のようにも見えました。

## 母の心も救ってくれた広尾メディカルクリニック

こうなったら、彼が見つけてくれていた「広尾メディカルクリニック」で診察を受けてみよう、と思い、2000年8月に初診のため斎藤先生を訪れました。グズグズと診察を渋っていたのには費用のほかにも理由がありました。斎藤先生にも「うちではちょっと・・・」とサジを投げられたらどうしよう・・・という不安が私の心を支配していたのです。

それは「死ぬ」と言われるより辛いことかも知れない、ダメだったら夫に何て言えばいい？など、気持ちが落ち込みモードの私はネガティブなことしか考えられなくなっていたのです。それでももう、ここしかないのだと意を決して、診察に行きました。先生はMRIの画像を見るなり「すごい来たね～～。」とちょっとも深刻がらず

におっしゃり、さらに「大丈夫、手術できるから。」と言って下さいました。飛び上がるほど嬉しかったのですが、他のお医者様がサジを投げたこの子宮を、どう手術して治すの不思議でした。

この時、広尾MCを怪しんでいた母も付いて来ました。クリニックの外観は、ホームページで紹介されている高度な技術とは掛け離れて、ごんまりとアットホーム。母は、とてもあんな素晴らしい技術があるとは思えず、保険が利かないという治療費の適正さも自分なりに検討したいと考えていたようです。しかし私の子宮の状態から他に選ぶ道が無いと分かり、先生とお話するまではどうかと思っていたようですが、「大丈夫。」とおっしゃってくれた先生の言葉であれこれと抱いていた疑念もなくなり、安心したようでした。

斎藤先生の「大丈夫」は、長年の母のピリピリした気持ちも救ってくれたのだと思います。夫は最初からこちらでの手術を勧めてくれていましたし、母も納得・賛成してくれたので、手術の予約をして地元に戻りました。最短で5ヶ月待ち、年明け1月8日の手術でした。

## 地元の主治医に感謝

通信病院では、私の子宮を残し続けるのはもう限界だということで、摘出手術の段取りをしていましたが、主治医の女医さんがとても気のいい方で、広尾MCでの話をしたら快く「手術しに行ってらっしゃい。」と言って下さり、術前検査のMRIなども協力いただきました。

でも、そのMRIを見て、こんな状態の子宮を全摘出せずに残せるのか信じられないという感じで、「本当に筋腫だけ取る手術ができるって言われたの??」としきりに尋ねていらっしゃいました。その女医さんが私の気持ちを汲んでくれて、ムダでもホルモン療法を試してくれて、子宮の摘出を急かさなかった事で、私は広尾MCに辿り着く時間を得ることができたのです。あの時、彼女が何とか私を諦めさせて全摘出の手術を受けるようなことになっていたら・・・と考えると、ぞっとします。

彼女が私の意志を尊重してくれたので、今の結果が得られたのだと感謝しています。術後のMRIもこちらの病院でお世話になりましたが、術後の画像を見て、とても興味深そうに、首を捻りながら「これはすごいねー、どうやってこの手術をしたんだろう??」と驚かれています。

## 摘出された130コもの筋腫たち

松の内が明けただけの1月8日。いよいよ待ちに待った手術です。手術はスムーズで(と思ったのは私だけ?)3時間ほどで終わりました。斎藤先生の手術時間の平均が2時間ほどらしいので、私の手術は少々長かったのかもしれませんが。

摘出物は総重量2,060g、病理検査の結果、平滑筋腫126コ・粘膜下筋腫4コ・合計130コもの筋腫でした。病室に置かれたバッグ2つにパンパンに詰まった摘出物を見ながら、いったいどうしたらこんなモノがお腹の中に収まっていたのか驚きでした。また3時間という短い時間に、どうしたらこんなに沢山の筋腫を取り除けたのか不思議です。

1回目の手術の時などは、私の体が危なくなるほど時間をかけてやっと10コしか取れなかったのに・・・。開腹の部位も、前回と同じ場所を切って下さったのですが、お腹のかなり下方部位なのに、どうしたらあの大きくなった子宮から筋腫だけを取り除くことができたのかも不思議。手術を受けた私自身が、手術がうまくいったことが信じられませんでした。

ただただ、斎藤先生の技術の高さに驚くばかりです。また、術後の経過は本当にらくちんで、1回目の手術とは比較になりません。1回目も今回も母が付き添ってくれたのですが、広尾の術後、私の苦痛が少ないことに驚いていました。術後、起き上がれるようになった時間も、1回目に比べたら短く感じ、20日後には職場に復帰できました。

手術の時か術後に、斎藤先生が「前回の手術は何もしてなかったんじゃないの?」とおっしゃったのには苦笑いするしかありません。1度だけ、お腹がパンパンに張って、ガスが溜まりすぎてすごく苦しい状態になりましたが、それもガスを出したり排便したりで無事解決し、元気に退院できました。

それから3週間後、1度だけ具合が悪くなったことがあります。昼食後に急に悪寒と吐き気に見舞われ、高熱が出て、腸の動きが止まっているような感じがしました。口が渇くのでお水を飲んでも、飲んだら飲んだだけ吐い

てしまうのです。夜中だったので「朝になったら近所のクリニックに行こう」とガマンして、ひたすら寝ていた  
ら、腸の動きが戻ってきた感じがしました。

すると悪寒や吐き気が少し軽減して、翌日のクリニックでは点滴と胃腸薬で何とか治してもらいました。お腹に  
悪いカゼだったのか、一時的に腸の具合が悪くなっただけなのかは分かりませんが、斎藤先生の手術後、具合が  
悪かった記憶はこれだけです。

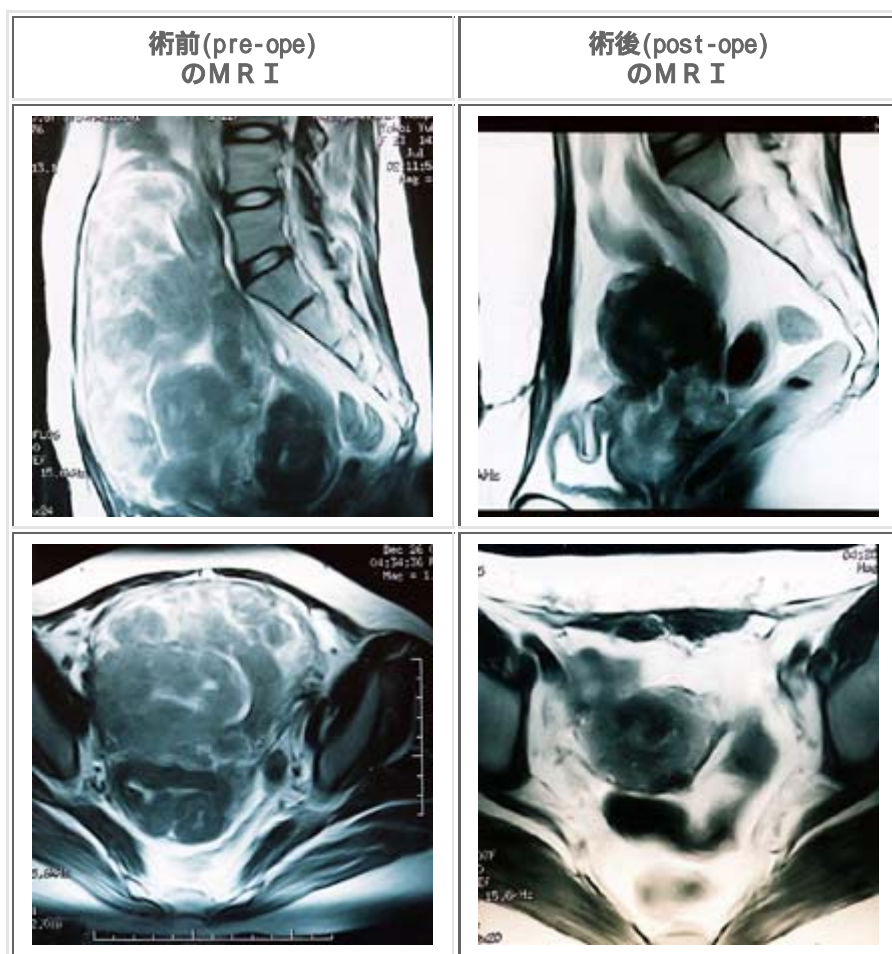
## 広尾MCで得られた希望

術後1ヶ月後に生理がやってきました。それまでの生理とは比べ物にならない軽さ！感激でした。術後6ヶ月  
経った今（取材日2001年7月）、貧血もすっかり良くなって、人に会うたびに「元気になったね。」と言わ  
れます。お腹の巨大なつかえが取れたので、動くのも楽になりました。

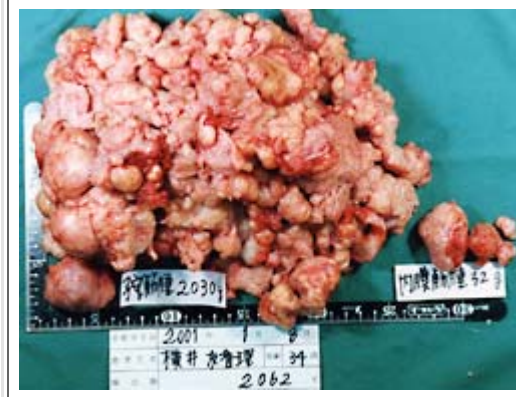
生理を気にせず行動し生活できるという事が、こんなに素晴らしいことだなんて思ってもいませんでした。術  
後、ぐんぐん元気に回復していく私を見て、夫は、自分が探してきた広尾MCでの手術が大成功だったとご満  
悦。母も私の回復ぶりにびっくりしながらも「広尾を探してきてくれた旦那さんに感謝しなくちゃね。」と言  
います。

本当に夫にも母にも、感謝しています。もちろん、手術して下さった斎藤先生とスタッフの方々にも。今、筋  
腫やその他の婦人科の疾患を抱え、日々、不安と絶望感を感じ心をささくれ立てながらも、何とかしようと思っ  
てこのホームページをご覧になっている方がいらしたら、是非「広尾メディカルクリニック」で診察を受けて欲  
しいと、心から思います。そして斎藤先生に会って、心を安らげて欲しいと思います。

広尾メディカルクリニックには、あなたの「希望」があるのです。



摘出物



	術前 (pre ope)	術後 (post ope)
赤血球 (RBC)	354	-
血色素 (Hb) (g/dl)	9.4	-
ヘマトクリット (Ht)	29.8	-
CA-125	22	-
備考	術前貧血がひどいためホルモン治療	

「“普通の手術”後、再発。私に3度目は考えられませんでした。」

S.T. (31才)

### 元気な自分が貧血だとは・・・

私は広尾MCで手術するまで、本当にもったいないほどの血液を月経過多で失っていました。その出血量は、一時的とはいえヘモグロビン値が信じられないくらい低くなってしまったことから、想像を越えた量だったのだらうと思います。そんなにひどい貧血なのに生活に支障は無かったのかと思われるでしょうが、もともとが丈夫なせいもあって、運動不足や年齢のせいだと思い、通常なら即入院を言い渡されるほどの貧血だとは、まさか夢にも思っていませんでした。

今思うと、会社の更衣室(4F・階段)まで昇り切ると、しゃがみこんで休憩しないと着替えもできないほどにしんどい思いをしていたのは、貧血の兆候だったのでしょうか。動悸や息切れというレベルを超えた辛さでしたが、当時は「運動不足なのだろう。」と思い込み、周囲も本人も、元気な私がまさか貧血だなんて思いも寄らず、同僚と「運動不足よ～。」「歳じゃないの？」などと軽口を交わしていたものでした。生理の出血は多いと思っていましたが、痛みなどは全く無く鎮痛剤も服用したことが無かったので、出血は気にはしていましたが病気だとは考えておらず、婦人科系に良いというお茶や健康食品などを試しては止め・・・ということを繰り返していました。

貧血が発覚したのは23歳頃。手指の関節痛のため整形外科を受診した時のことです。レントゲンでは手指に異常が認められず、末端の関節が痛むのは通風などの怖い病気の場合もあるから、と血液検査を含め数種類の検査を受けたら、なんとヘモグロビン値5.1。あまりの数値に、すぐに内科を受診するよう薦められました。

内科では毎日の注射と鉄剤の服用を言い渡され、貧血の原因についてはいくつかの検査を受けましたがどれも該当しません。先生から「貧血になる心当たりは？」と尋ねられ、その際に「月経過多・・・かもしれません。」と申し出たところ、即、婦人科にかかるよう指示されました。高校生頃から人より出血は多くなっていたのかもしれませんが、出血量を他人と比べたりできないですし、また、軽しく口に出せる話題でもありません。痛みなどは全く無かったので、少々出血量が多いけどこれが私の普通の生理なのだと思っていたのでした。それがまさか、ここまでひどい貧血の原因だとは・・・。

### 出血を止めるためのホルモン療法

母が子宮筋腫で全摘出手術を受けたことのある市立病院の婦人科にかかり、MRI検査をしました。すると子宮の内側に細かい多数の筋腫があると指摘されました。あまりにもプチプチと沢山あるので、これらを手術で全て取り除くのは難しい、取り急ぎは貧血を何とかしましょうということで、貧血の原因になっていると思われる生理を止めるため、スプレキュアによるホルモン療法を始めました。

1クール(半年)後、筋腫は多少縮んだようでしたが、スプレキュアを止めるとすぐに元の大きさに戻ります。月経の出血も、ホルモン療法前より多くなった気がしました。いえ、ナプキンの交換時間などから判断しても、確実に多くなっていました。

半年の休止の後、また1クール、スプレキュアの再開。私の場合はホルモン療法の副作用はほとんど現れず、生理が止まっている間は快適そのものでした。もう生理を止めるためだけに、ず～～とスプレキュアを使いたいとまで思うほど。それを婦人科の先生に言ってみたら、絶対ダメとのこと。副作用は無くても、やはりホルモン剤は体に悪いのですね。

## 月経過多の憂鬱な日々

出血過多で悩んでいる人のほとんどは必ず経験しているはずと思うのですが、会社や学校など、自分の都合を優先できない場所での大失敗・・・私は何度、自分の椅子をトイレで掃除したか知りません。また、営業畑で男性の多い職場だったので、私の辛さをなかなか理解してもらえず、更衣室で一人涙した事もたびたびです。

出血過多の日の仕事はナプキン交換に時間を奪われ、失敗するのではという不安に集中力を奪われ、ミスしないのがやっと。工夫して自作した特大高性能ナプキン（普通の高性能ナプキンの上に夜用を被せ、さらにその上から大人のオムツを被せる。もちろんタンポンもスーパーサイズ使用。）も、たった40分で交換。同僚の女性社員には「すみません、来ちゃいました。」と頭を下げ、仕事をフォローしてもらっていました。

自分でも「全然仕事ができやしない、給料泥棒・・・」と罪悪感が心にチラつきます。ロッカーには常に着替えのスカートと封も切っていないような新品のナプキンや紙おむつの山。こうして準備万端整えておかないと、ものすごく不安でした。友人とのお出かけも「この日はダメ、ここもパス」と日にちが限定され、また出かけていても「大出血」を感じたら、お出かけは諦めて帰宅しないとタイヘンなことになるのでした。友人とは長い付き合いで、私の出血過多がどのくらいひどいか知っていましたので、お出かけがおじゃんになっても文句1つ言わず、付き合ってくれました。

一度などは社内旅行のバス旅行の最中に生理になって大出血を起こしてしまい、用意はしてあったものの、そんなにトイレ休憩もなく、バスのシートは汚すし自分の服も汚すし、「どうしよう、どうしよう・・・」と最後まで席を立てずにいました。同僚が助けてくれて、まずバスガイドさんにその事を告げると、ガイドさんは慣れた感じで「大丈夫ですよ。」と言ってくれましたが、私はもうたまりません。その後、何とか席を立ちバスを降りましたが、出血がポタポタと垂れていました。何とか始末をつけ、ちゃんと着替えもして自宅まで帰りましたが、また大出血を起こしていて、自宅付近の路上に出血がタラタラと落ちていたようです。母が出迎えてくれた時気付いて、水で血を流してくれていました。

## 核摘出できない地元病院

貧血だけでなく、生理があまりにも日常生活に差し支えるので、ホルモン療法を受けていた病院で核摘出手術をやしてほしいと訴えましたが、筋腫が多すぎるし、できている位置が悪いということで手術するなら全摘しかないと言われました。転院も考えましたが地元の病院は横のつながりが強いという話を聞いたことがあり、地元で転院しても同じことになることは簡単に予測できました。

20代の半ばにして子宮全摘出なんて哀しすぎます。地元の病院では摘出かホルモン療法しか選択が無い・・・。本を読んでみても同じようなことしか書いてありません。どうするか悩んでいた時期、当時の上司の奥様が子宮ガンで東京の順天堂にかかっていると聞きました。奥様は子宮を摘出せずに子宮ガンを克服されたそうなので、病気は違うけど診察してもらって価値はあるのでは？と勧められ、新幹線で2時間かけて東京まで受診しに行きました。

## 1回目の手術～再発

受付から2時間くらい待った後、診察。今考えると途方も無い時間の無駄なようですが、この時の私には、この病院しか頼れるところがありませんでした。順天堂では核摘出手術を検討してくれて、手術を受けるためにはとにかくヘモグロビン値を高めなくてはならないとのこと。そのために数ヶ月間は貧血の治療を受けながら待機し、出血を止めるためスプレキュアも手術前に3ヶ月ほど使いました。

26歳、1回目の手術では200gほど摘出されました。細かいことは忘れましたが、この手術後はとにかく辛かった記憶だけが残っています。手術が全身麻酔だったせいか術後の様々な薬のせいか、ものすごく気分が悪く、具合が悪いとしか言えない体調でした。3～4日は起き上がることなどできず、ベッドの上でグッタリ。

4日目くらいにやっとカラダを起こし（というか強制的に起こされ）、「腸を動かさないといけない。」と言われたような気がします。また、このとき同じ日に同じような手術を受けた方と同室だったのですが、二人とも顔色が無く、婦長さんに「二人して死体のようだね。」と言われました。傷熱もひどく、座薬を使って対応していました。食後もムカムカして吐くことがしばしばで、こんなことで元気になるのか・・・と不安に感じたものでした。術後の生理も楽になった記憶が無く、出血が減った印象もありませんでした。検診の時に「楽になったでしょう？」と先生に言われて、「楽になってるのかなぁ？どうなんだろう？」と考えてしまいましたが、何となく楽なのかも知れないという感じで「はぁ、まぁ。」と曖昧な返事をしていました。



## 再発したとは思いたくないけど・・・

1回目の手術を終えて2年も経たないうちに、生理の出血量が気になり始めました。手術前は2日目くらいに大出血するとあとは普通の出血だったはずなのですが、だんだんと4日目5日目も大量の出血があるようになり、大量の出血とともに卵くらいの大きさの塊が2度3度と続けて出るようになりました。

出血が多くておちおち眠れないので、介護用の使い捨てシートを発見し、「これだ！」と思いついて寝ていました。それでも3時間ごとに起きてナプキンを交換していましたが、この介護用シートを発見するまでは「絶対眠らない！」と覚悟を決め、夜を徹して出血に対応していました。当然翌日の仕事にも影響します。会社に居ても落ち着かず、この期間中は周囲に頭を下げてフォローしてもらっていました。

1回目の手術前の状態に全く逆戻り、いえ、それよりひどい状態になっているようです。また、大量に出血しつづけているので、頭はボンヤリして体もだるく、かなり投げやりな感じでした。こんな具合になったら、自宅に帰るしかありませんでした。レバー状の塊（手のひら半分ほどの大きな塊が出てくる。内臓の一部かと思うほど。）はもちろん、ナプキンを傾けたら経血がしたり落ちるくらいの出血。しかも塊は、出る瞬間だけでなくお腹の中を“降りてくる”のが分かるのです。「きた・きた・きた・・・、まずい！トイレ！」という状態。

子供でも生んでいるかのような感触です。ナプキンは吸収力だけが選ぶ基準。友人たちのように「厚み」や「感触」にこだわって、あれこれ選んでいる場合ではありません。ナプキンはもちろん、大人用紙オムツから子供用紙オムツまで、吸収力を研究し尽くすくらいでした。

また、この頃からトイレが近くなり、しかも尿意を少しでもガマンすると逆に出渋り、頭の血管がキレるんじゃないかと思うくらいイキまないと排尿できないような、おかしなことになってしまいました。そのうち貧血の自覚症状が現れて来たので、またしても内科にかかり、注射と飲み薬を処方されました。一時期ヘモグロビン値4.3になった時はさすがに入院を勧められましたが、仕事があったので何とか通院で対応しました。

生理前は下腹部が異常に張って、仰向けで寝転がっても下腹部がポッコリと出るようになり、お腹を触ると手に硬い感触が・・・。ここまで症状が現れると、さすがに子宮筋腫が再発したのだと実感しましたが、それを認めたくない気持ちは強く、ことさら現実を直視しないようにしていました。

## 「広尾」に賭けたい！

30歳の結婚4ヶ月前のこと。結婚式にこのひどい生理が重なりそうだったので何とかしてもらおうと地元の病院に行きました。MRIの結果、筋腫のため、子宮が大人の頭大の大きさになっていると判明。こちらの先生は「とても4年前に筋腫を摘出したとは思えない。悪性の肉腫かもしれないので念のため検査をしましょう。」とおっしゃり、検査をしてみました。やはり筋腫でした。

結婚を目前に控えた私に、この事実は残酷でした。「婦人科医の10人中9人が全摘出をすすめる状態です。」と説明され、仮に筋腫のみを取り除けたとしても、子宮の大半を一緒に摘出することになるので、使い物にならない子宮しか残らないだろうとも。それでも全摘出をしてしまうよりマシかもしれない、先生や家族と話し合いをして、限りなく低い可能性に賭けて、ホルモン療法（リュープリン）を1クール終わったら、手術を検討しようということになりました。

この間、広尾メディカルクリニックのサイトをインターネットで探し当てましたが心が決まらず、幼馴染の友人に相談してみました。プリンターを持っていなかった私に、友人は内容を全て出力してくれました。豊富な体験談、いろいろなことが詳しく説明してあるページに惹かれながら、それでも迷っていました。保険の使えない自由診療で、現実世界ではそんなに有名でもなく、ネット上だけの怪しいクリニックかもしれません。

そんな私の背中を押したのは、「お金で治るものなら迷うこと無い。お金で健康が買えるなら、私は買うね。」という友人の言葉でした。「お金を出しても治らない病気の人もいます。」と。1回行ってみて話を聞いてからでも遅くない、怪しかったら断って逃げ出せばいいんだから・・・と診察に行くことを決めました。メールでの質問にも素早く丁寧に回答いただいていたので、私はさほど怪しいとは思っていませんでしたが、さすがに母は怪しみ、一緒に行くと言い出しました。母は自分の目で確かめないと気がすまなかったようです。

病院とは思えない柔らかな雰囲気クリニックに、多少おどおどしながら初診に。斎藤先生は、持参したMRIを見て、「これはすごいね～、でも大丈夫。もっとひどい人もいたんだから。」と、おっしゃいました。筋腫はすごいことになっていましたが、卵巣は大丈夫なようです。

1回目の術後、4年足らずでこのように再発してしまった事に関しても、「1回切った子宮の中ってというのは卵の殻のようなモノで、割る前は殻が堅いが1回割れると脆くなり、簡単に中身が飛び散ってしまう。1回切ってしまうと、筋腫が取りきれない場合、再発した筋腫は育ちやすくなる。」と、医学的な知識の少ない私にも分かりやすく説明してくれました。

母は娘の子宮を治療できる先生を目の前にして必死になっているようでした。私が母の体質を受け継いだらしく筋腫になってしまったことを、気にしていたのでした。私が結婚を控えている身だった事もかなり気に病んでいたらしく、「本当に大丈夫なんですか？子供はできますか？」と先生に質問していました。さすがに先生は「子宮はきれいに治せるが、子供を授かるかどうかは神様の領域だからね。」と諭すように話してくれていました。確かに、まったく健康でも子宝に恵まれない人もいるのですから、そこまでの事を斎藤先生に保証しろというのはムチャです。先生が、「みんなボクに神様みたいなことを要求する。」と苦笑いしていらしたのが印象的でした。

とにかく大丈夫と言ってくれる先生に賭けたい、他の病院の処置では再発の可能性が高そうですし、それ以前に子宮を残すことさえ困難なのが現実です。「広尾メディカルクリニック」で手術を受けようと決めて、半年後の手術を予約して帰りました。

結婚式を無事終えて、2001年1月、手術を迎えました。出血のせいで手術が延期になると困るのでリューブリンは続けており、ちょうど6回目・最後の注射後に手術でした。手術中はほとんど寝ていたので覚えていませんが、術直後に少し目を覚ましていたら、看護婦さんが摘出物の詰まったバッグを持ってきて「これ、どうしましょうか？」と言うので、「今日はいいです～～。」と見るのを遠慮しました。翌日には部屋の片隅に置いてありましたが・・・。

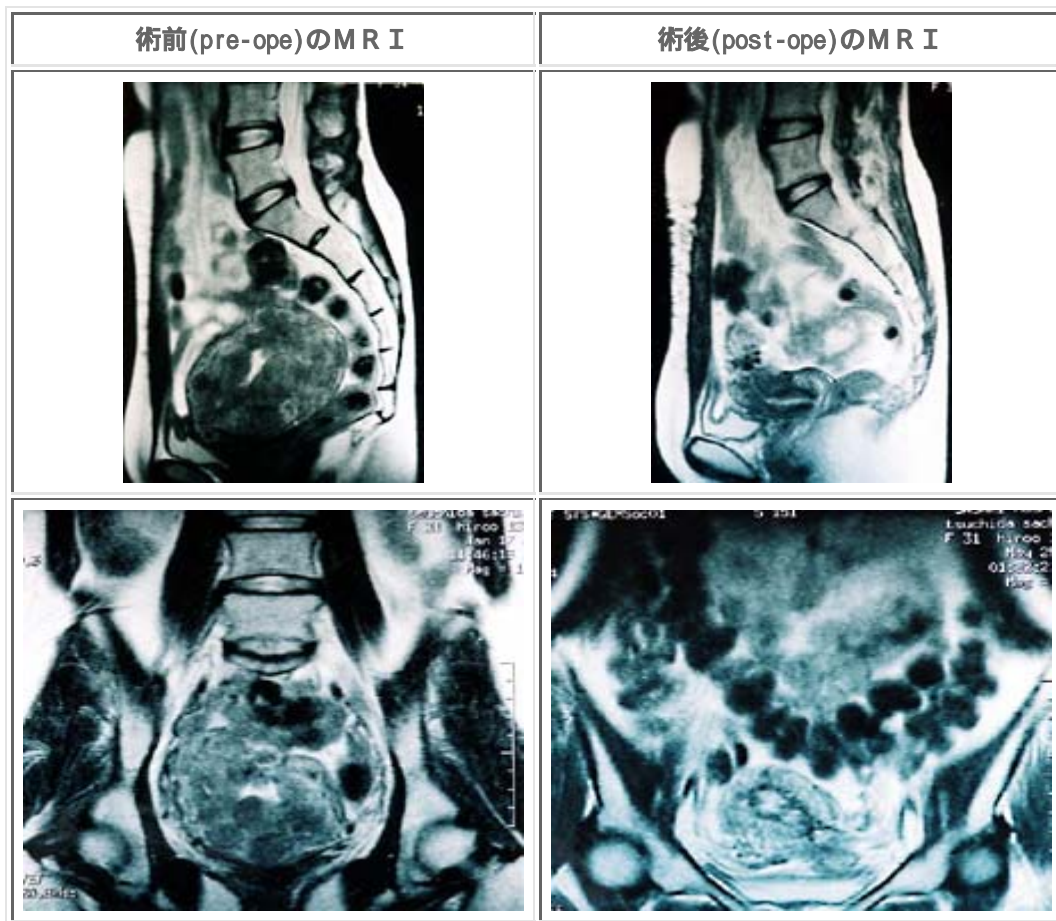
筋腫、粘膜下筋腫、ポリープ。トータルで165gくらいの摘出物でした。術後のラクチンさと言ったら、1回目の手術とは比較になりません。傷は内臓が処置できるくらい切っただけなので、多少痛くて当然ですが、前回のときのように吐き気や具合の悪さなどが一切なく、食欲もあり、食事を吐き戻す事も無く、快適に入院生活を送りました。

退院後もこれと言って不調に陥ること??????も無く、ぐんぐんと回復していきました。楽しみにしていた生理は（生理を楽しみにしたことなど生まれて初めてかもしれません！）リューブリンの影響か、同期入院の方より1ヶ月ほど遅れてやってきました。（先生からも薬の影響で他の人より遅いかもかもしれないと説明されていました。）「これが出血？」と思うほどの少なさ。本当にこれでいいのかな？と不安になるほどです。

でもこれが、私にとっての「正常な生理」なのでしょう。特大ナプキンやおむつ、介護用シートなどはもう必要ありません。生理の周期も27～28日で安定してきました。術後のMRIでは、あんなに巨大で他の内臓を押しつけてのさばっていた子宮が小さく小さくなって、他の内臓も画像にハッキリ映っていました。この数ヶ月間、腹筋を使わないよう使わないよう過ごしてきたせいか、腹部や腰周りの皮下脂肪が術前より明らかに厚みを増していて、術後半年以上経ったので、これから運動して引き締めていかないと！という感じです。日常生活でもすでに走り回ったりしているので、ちょっと頑張ろう、夫にバレル前に・・・。

私の回復には家族も驚き、喜んでくれています。何より子供を産める可能性を大きく残しての治療でしたので、母も夫も大喜びです。斎藤先生の手術のお陰で、私一人ではなく、私の家族も幸せになれたと思います。今、悩みながらこのHPをご覧になっている方たちにも、方法はいろいろあると思いますが、どうかご自分の後悔のない選択をしていただきたいと思います。

私自身、広尾については、保険診療外であることや、よく知られていない病院であることなどから家族の反対にあいました。二度目の手術になる私に、「今回は地元の病院で手術してみて、駄目だった場合、三回目に広尾に行ってみてはどうか」という声もありましたが、私は同じ事を繰り返すのでは意味が無いと思いました。そしてその選択に間違いはありませんでした。背中を押してくれた友人にも感謝しています。何より、こんな元気になっていただけた斎藤先生、何をお願いしても笑顔で応えてくださったスタッフの方々本当に感謝いたします。



	術前 (pre ope)	術後 (post ope)
赤血球 (RBC)	424	468
血色素 (Hb) (g/dl)	12.9	14.1
ヘマトクリット (Ht)	37.3	43.9
CA-125	12	-
備考	術前Hb4.6の事もあったと言う。 ホルモン治療を続けた。	

## 「最後まで治療法に妥協はしないで幸せになろう」

渡辺世利子（40才）

**注意信号を見落とさないで**

私はいつも元気でした。いえ、元気なふりをしていただけかも知れません。いくつかの注意信号はあったにもかかわらず、一番大切な子宮からの叫びに気が付きませんでした。医療に対してあまりにも無知でした。

他人には婦人病であることってなかなか言えませんでした。元気になった今思うのですが、もっと「辛い」って弱音を吐いてしまえば楽だったかも知れません。我慢すること、無理をすることが更に病状を悪化させてしまったように思います。治療を決心するなら早いほうがいい。だけど、治療方法に対して妥協はするべきではないと思います。後悔するのは自分なんだから・・・。

でも私は悩んでいるうちに広尾を見つけることのできた運の強い人間です。広尾を選ぶことができなかつたら、今の自分はなかったと確信しています。広尾での手術後に結婚し、毎日を幸せに暮らしています。私は注意信号を見落とししてしまったけど、何らかの参考になればと思い、これを書きました。

**ひとつ目の注意信号**

私のひとつめの注意信号は33歳の時、朝ふと首筋の腫れに気づき、すぐに行った会社の病院で「手術が必要かも知れない」との診断。甲状腺の腫瘍でした。自分の転勤や引越しが重なったことが原因と考えられ、ストレスもかなり多い状態でした。ここで生まれて初めての手術を経験しました。首の手術後は、咳をするのも辛く、今思うと広尾での術後より辛かったことだけは確かです。

「良性腫瘍です。おできみたいなものですよ。ははは」という先生の言葉にホッとしたのを覚えています。今振り返ると、言われるままに切除したのは正しい選択だったのかどうか？ どのような説明で手術を決断したのか？ すっかり記憶も風化してしまいました。それに比べ、広尾で戴いた1冊のファイルには、手術の期間の記録がすべて残っています。痛みも喜びも、すべてのことが・・・。

**「様子をみましょう」は残酷な言葉**

その手術の直後にあった、「乳がん・子宮がん検診」で子宮筋腫がみつきり、精密検査を受ました。医師の「様子をみましょう」との言葉に「また、おできができちゃったのか。」と簡単に考えた自分が悔やまれます。そのお気楽さのあまり、様子もみずにただ放っておいたのだから・・・

。「様子をみましょう」は患者に少しの期待を持たせますが、取り返しがつかないことになる可能性を秘めた残酷な言葉であることには気がつきませんでした。体験談でわかるようにほとんどの方が同じように言われているようですが・・・。

それから2年が過ぎて・・・。

会社の健康診断で「貧血がひどいようです。病院で診てもらったほうがいいかも」と言われ、それが「婦人科に行け」ということだとは気がつかず、胃が荒れていたのも、そのせいかと勘違いして自分を納得させていました。その後、貧血は悪化していくばかり。生理中の出血はひどかったのに、痛みはありませんでした。

さらに3年が経過しました。

仰向けに寝るとおなかの上で骨のような感触で、触るとこぶし位の大きさがあります。不安はあったにもかかわらず、なかなか病院には行けませんでした。

ようやくS病院で、MRIを撮るとそれは8cm位の筋腫でした。先生の「手術しましょう」という言葉には頷けず「漢方を試してみようかな」と漠然と思い、薬を飲み始めました。もちろん漢方では筋腫が小さくなることはありません。

## 最終的にわたしが選んだ道

1年後のS病院では「筋腫をとっても妊娠できる可能性は5%程度しかない。全摘になる可能性は50%位ある。無理して手術する必要はない」という診断です。この時からの苦しみ・悲しみは、私にとって人生を見つめなおす機会となり、最終的に選んだのは離婚、そして広尾での手術という道でした

。手術は2000年10月。待つ間も貧血はますますひどくなり、まるで筋腫が最後の抵抗をしているかのようでした。この体験談の皆さんは自分の病気についてきちんと勉強をされていて、頭が下がる思いです。私は「何か聞いておきたいことはありますか？」という斎藤先生の言葉にただ「お願いします」としか言えませんでした。もちろん、それは「広尾で手術するしかない」という直感があったからで、何の不安もありませんでした。

手術・経過ともに順調でした。術後に水が飲めなかったのが、一番苦しかったのを覚えています。お腹にメスを入れられた時は「なんかピザを切っているみたい」なんてのんきに思えるほどの安心感がありました。退院の日には斎藤先生に東京駅まで送って頂いて、新幹線に一人で乗り、家に着くと母が「入院の荷物くらいは宅急便で送ればよかったのに・・・。」というほど元気よく帰れました。

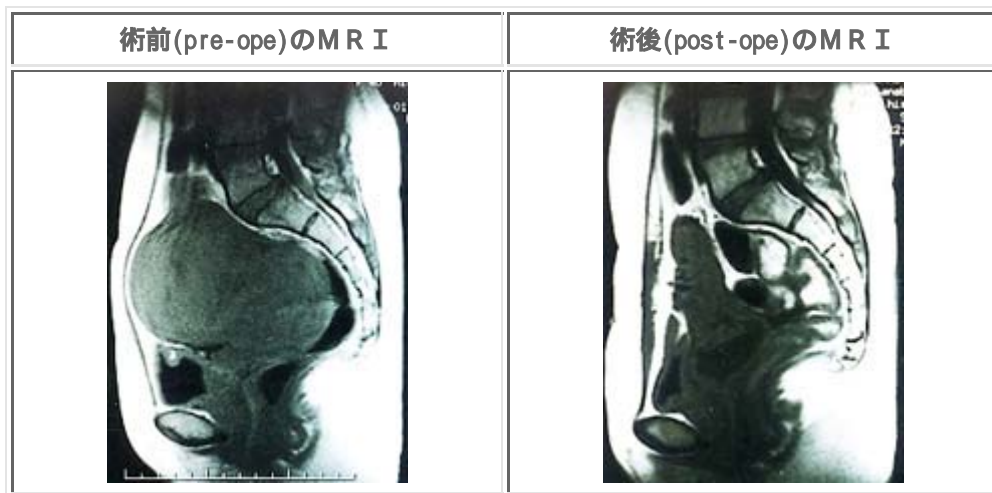
## 幸せになるための決断をしましょう

今でも時々、手術のファイルを開いています。手のひらに乗るくらいのピンクの子宮が可愛らしく写っています。こんな写真を持っている人なんてそうそういないだろうな。他人に言うと「気持ち悪い」って言われそうだけど、私にはとてもいとおしく、かけがえのないものです。

他の人にも絶対、失ってほしくない。一緒に失ってしまうものも絶対あるから。今は「私と一緒にHappyになってくれる人がいるなら、もっともっと幸せになろう。」そう思いながら、毎日を生きています。

そうそう、広尾の見学に行った時に偶然、同郷の方が入院していらっしやいました(前島さん)。術後なのにとってもパワフルで楽しそうで・・・。彼女たちと話ができたことで、手術になんの不安もなかったのだと思います。悩んでいる方はぜひ入院患者さんたちとお話ししてみてください。金曜日ならきっと会えます。それ以降の人生を決めるのはもちろんあなた自身です。後悔は決してしないようにね

。最後に斎藤先生は母と同じ歳であることに驚きを感じています。若々しくてとても素敵で・・・。斎藤先生、どうもありがとうございました。



	術前(pre ope)	術後(post ope)
赤血球(RBC)	390	447
血色素(Hb)(g/dl)	8.7	13.4
ヘマトクリット(Ht)	26.9	40.2
CA-125	38	-